

1	表象文化論	FGE-CCS-241	選択 2単位 1年後期
	Culture and Representation		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 河内 聡子 西原 志保			
授業の達成目標			
(1) 授業・課題・確認テストに真剣に取り組むことができる。 (2) 授業の内容に基づき、要点をまとめることができる。 (3) 授業の内容に基づき、感想や意見を述べるができる。 (4) 表象文化論についての基礎知識を習得する。 (5) 映像を解釈し、表象を多角的に捉える力を身につける。 (6) 表象文化に関する、歴史的・社会的な背景と関連性を理解することができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)～(4)とする。(2)(3)については課題(レポート)により、(4)については確認テストにより評価する。			
授業の概要			
本講義においては、諸メディア(芸術・映画・アニメ・マンガ等)で再現・表現された様々なイメージについて、その歴史的背景や文化的文脈とのかかわりも踏まえて分析、考察を行う。まず表象・文化とはどのようなものかについて確認した上で、設定した時代・テーマに関するイメージを解説し、同時に広く文化・時代状況について検討する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
毎回プリントを配付し、それに従って講義を進める。			
参考書等			
参考の書籍やURL等がある場合は講義中に紹介する。			
成績評価方法・基準			
テスト(60%)とレポート課題(40%)により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

1	表象文化論	FGE-CCS-241	選択 2単位 1年後期
	Culture and Representation		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：表象文化におけるアニメーション	シラバス通読の上、準備学習を行う。	2
第2回	日本アニメの誕生	ガイダンス内容の確認とコメントの記述。 日本の古いアニメについて調べる。	2
第3回	日本アニメにおける〈作家〉の登場—その表現と技術—	講義内容(日本アニメの誕生)の確認とコメント記述。 アニメの作り方について調べる。	2
第4回	アニメの大衆化—メディアとしての普及と受容—	講義内容(日本アニメの表現と技術)の確認とコメント記述。 メディアとは何かについて調べる。	2
第5回	作品の鑑賞と解説「桃太郎 海の神兵」—国策メディアとしてのアニメ—	講義内容(アニメの大衆化)の確認とコメント記述。 「国策メディア」にどのようなものがあるか調べる。	2
第6回	作品の鑑賞と解説「桃太郎 海の神兵」—アニメにおける戦争表象—	講義内容(「国策メディア」)の確認とコメント記述。 戦争を扱ったアニメにどのような作品があるか調べる。	2
第7回	敗戦と日本アニメ—ディズニーの衝撃—	講義内容(アニメの戦争表象)の確認とコメント記述。 1930年代のディズニーのアニメ作品について調べる。	2
第8回	日本アニメの復興と再生	講義内容(敗戦と日本アニメ)の確認とコメント記述。 「東映アニメーション」について調べる。	2
第9回	アニメの技術と表現—日本と海外との比較に見る—	講義内容(日本アニメの復興と再生)の確認とコメント記述。 海外のアニメ(アメリカ以外)にどのような作品があるかを調べる。	2
第10回	テレビアニメの登場と展開—劇場アニメとの比較による検討—	講義内容(日本と海外の比較)の確認とコメント記述。 テレビおよびアニメ放送の歴史について調べる。	2
第11回	手塚治虫と虫プロダクション—その挑戦と革新—	講義内容(テレビアニメの歴史)の確認とコメント記述。 手塚治虫がどのような人物が調べる。	2
第12回	高畑勲・宮崎駿とスタジオジブリ—「アニメ監督」の登場—	講義内容(手塚アニメ)の確認とコメント記述。 高畑勲・宮崎駿がどのような人物が調べる。	2
第13回	作品の鑑賞と解説「AKIRA」—物語内容の分析と検討—	講義内容(スタジオジブリ)の確認とコメント記述。 「AKIRA」の作品内容について調べる。	2
第14回	まとめと試験	講義内容(「AKIRA」)の確認とコメント記述。 配付プリント全てについて復習とコメントの総まとめ。	2
		試験内容の復習。	2

2	メディア文化史	FGE-CCS-242	選択 2単位 1年後期
	Media culture		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、全学科全クラス 大木 葉子			
授業の達成目標			
メディアについての基礎知識を習得するとともに、主に映像メディア（映画・テレビ・絵本）を中心に歴史的な展開と、我々の社会意識・文化状況との関係について理解する。			
① メディアの展開が我々の生活に及ぼす影響を理解する。 ② 映画・テレビ・絵本についての基礎知識を習得するとともに、分析方法を身に付ける。 ③ 現代の各メディアの歴史的展開と、我々の社会意識・文化状況との関係について理解する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは、達成目標の①と②とする。			
授業の概要			
我々が日々接している「メディア」は、消費社会の高度化と科学技術の進展を背景に、世界中を覆い尽くし、生活になくはならないものとなっている。本講義では、「メディア」という言葉の持つ多様な意味についてまずは紹介、確認を行う。続いて「メディア」の20世紀以降の展開を概説する。メディアの史的展開をふまえた上で、我々の社会・文化の様相の変容についてもあわせて考察を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は特に指定しない。毎回資料を配付し、それに基づいて授業を行う。			
参考書等			
配布した資料以外の参考資料については適宜授業内で指示をする。			
成績評価方法・基準			
テスト（60%）と提出課題（40%）により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

2	メディア文化史	FGE-CCS-242	選択 2単位 1年後期
	Media culture		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：メディアとは何か。メディアの機能。	シラバスを通読し、メディアとは何かを調べる。	2
第2回	メディアの展開と我々の生活：メディアをめぐる問題	授業内資料の確認とワークシートの整理。	2
第3回	映画から見る現代社会①—映画史概説—	メディアの発展の歴史について調べる。	2
第4回	映画から見る現代社会②—作品分析の方法—	講義内容の確認とワークシートの整理。	2
第5回	映画から見る現代社会③—映画に見る現代社会の諸相—	映画の歴史について調べる。	2
第6回	映画から見る現代社会④—映画が伝える現代社会の問題—	前回の講義資料の復習	2
第7回	テレビというメディア①—テレビの歴史的展開と現状—	講義内容の確認とワークシートの整理。	2
第8回	テレビというメディア②—子ども向けテレビ番組から見る社会・文化（1960～1970年代）—	テレビの歴史について調べる。	2
第9回	テレビというメディア③—子ども向けテレビ番組から見る社会・文化（1990～2000年代）—	1960～1970年代の時代思潮について調べる	2
第10回	テレビというメディア④—子ども向けテレビ番組から見る社会・文化（2000年～）—	講義内容の確認とワークシート整理。	2
第11回	絵本というメディア①—視覚テキストと文字テキストの融合—	1990～2000年代の時代思潮について調べる。	2
第12回	絵本というメディア②—絵本の可能性—	講義内容の確認とワークシート整理。	2
第13回	絵本というメディア③—絵本が描き出す現代社会・文化—	絵本の定義・種類について調べる。	2
第14回	まとめ	絵本の形態・様式について調べる。	2
		講義内容の確認とワークシート整理。	2
		社会問題を扱った絵本について調べる。	2
		講義内容の確認とワークシート整理。	2
		各回の講義内容及び資料を見直し、整理する。	2
		レポートの内容をふまえてより発展的な問題について考える。	2

3	東北文化史	FGE-CCS-341	選択 2単位 2 年前期
	Cultural history of Tohoku		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	  
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 河内 聡子			
授業の達成目標			
(1) 授業・課題・確認テストに真剣に取り組むことができる。 (2) 授業の内容に基づき、要点をまとめることができる。 (3) 授業の内容に基づき、感想や意見を述べるすることができる。 (4) 授業の内容を踏まえて問題を提起し、その解決のために調査および考察することができる。 (5) 東北を舞台とした作品を通じて、東北の諸地域がどのように表現されているかを考えることができる。 (6) 東北をめぐるイメージや価値観が、どのように形成され、どのように変化しているかを、歴史的・社会的な文脈の中で理解することができる。 (7) 東北に関する多様な文化について理解することができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) ～ (5) とする。 (2) ～ (4) については課題 (レポート) により、 (5) については確認テストにより評価する。			
授業の概要			
東北地方の各地域は中央の都に対する周縁の地方として位置づけられ、地方・自然・人情・懐古などのイメージで表現されてきた。この授業では、アニメなどのサブカルチャーを含めて様々な表現作品から東北のイメージを探り、現在までに作られつつある価値観を考えていく。また、東北の中における「宮城」および「仙台」のイメージや位置づけなどについても考察する。参加者には、自分の経験や知識をふまえた、主体的かつ積極的な意見表明を期待する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
毎回プリントを配付し、それに従って講義を進める。参考の書籍やURL等がある場合は講義中に紹介する。			
参考書等			
講義中に適宜指示する			
成績評価方法・基準			
テスト (60%) とレポート課題 (40%) により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、WebClass を通じてフィードバックを行う。			
備考			

3	東北文化史	FGE-CCS-341	選択 2単位 2 年前期
	Cultural history of Tohoku		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンスー視点と方法ー	シラバスを通読の上、準備学習を行う。	2
第 2 回	東北の物語 1 『くまみこ』 (1)ー物語のなかの東北イメージー	ガイダンス内容の確認と、コメントを記述する。	2
第 3 回	東北の物語 2 『くまみこ』 (2)ー「地方」と「都会」の関係性ー	アニメ『くまみこ』について調べる。 講義内容 (東北イメージ) の確認とコメント記述。	2
第 4 回	東北の物語 3 『おもひでほろほろ』ー描かれた東北の自然と人ー	「地方」と「都会」のイメージについて調べる。 講義内容 (地方と都会) の確認とコメント記述。	2
第 5 回	東北の物語 4 『おもひでほろほろ』 (2)ー理想郷としての東北ー	アニメ『おもひでほろほろ』について調べる。 講義内容 (東北の自然と人) の確認とコメント記述。	2
第 6 回	東北の物語 5 『おしん』ーおしんブームと東北ー	旅先としての「東北」のイメージを調べる。 講義内容 (理想郷としての東北) 確認とコメント記述。	2
第 7 回	東北の歴史 1 東北イメージを歴史から問う	ドラマ『おしん』について調べる。 講義内容 (おしんブーム) の確認とコメント記述。	2
第 8 回	東北の歴史 2 奈良・平安時代ー『アテルイ伝』を見るー	「蝦夷」について調べる。 講義内容 (東北の歴史) の確認とコメント記述。	2
第 9 回	東北の歴史 3 鎌倉・室町時代ー『炎立つ』を見るー	「アテルイ」について調べる。 講義内容 (『アテルイ伝』) の確認とコメント記述。	2
第 10 回	東北の歴史 4 近代ー『八重の桜』を見るー	「奥州藤原氏」について調べる。 講義内容 (『炎立つ』) の確認とコメント記述。	2
第 11 回	東北の文化 1 民俗・信仰ー東北の神々ー	「戊辰戦争」について調べる。 講義内容 (『八重の桜』) の確認とコメント記述。	2
第 12 回	東北の文化 2 遺産ー「縄文遺跡群」から考える持続可能社会ー	東北の神について調べる。 講義内容 (東北の神々) の確認とコメント記述。	2
第 13 回	東北の文化 3 「文学」から繙く東北の可能性	東北の縄文遺跡について調べる。 講義内容 (東北の遺産) の確認とコメント記述。	2
第 14 回	まとめと試験	東北出身の作家について調べる。 講義内容 (東北の文学) の確認とコメント記述。	2
		配付プリント全てについて復習とコメントの総まとめ。	2
		試験内容の復習。	2

4	現代社会論	FGE-CCS-342	選択 2単位 2 年前期
Modern Sociology			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 新田 貴之			
授業の達成目標			
日本社会が高度経済成長のなかでいかに変容してきたのかについて理解し、現代日本社会の特徴を理解するための視点を養う。			
ミニマムリクワイアメント			
(1) 授業・課題・確認テストに真剣に取り組むことができる。 (2) 現代社会における社会問題に関心をもつことができる。			
授業の概要			
日本社会は戦後の高度経済成長を通して大きく変貌を遂げてきた。本講義では、私たちが生きている現代日本社会の成り立ちや特徴を理解することを目的に、高度経済成長が私たちの生活にもたらした変化、その意味について探求する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業ごとに資料を配布し、それにしたがって授業を進めるため、教科書は使用しない。			
参考書等			
これ以外の参考書については、授業内で適宜紹介する。 社会学 改訂版 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 有斐閣 2019 社会学 第五版 アンソニー・ギデンズ 而立書房 2009			
成績評価方法・基準			
課題レポート (30%) と期末試験 (70%) によって総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

4	現代社会論	FGE-CCS-342	選択 2単位 2 年前期
Modern Sociology			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	シラバスを通読した上で、不明な語句等を調べておく。 社会学の基本的な立場やその視点を復習する。	2
第 2 回	「近代」という社会がもたらしたもの	高度経済成長とは何かを調べておく。 高度経済成長期の日本に起きた変化を復習する。	2
第 3 回	産業化と家族の変化	近代家族とは何かを調べておく。 高度経済成長期の家族の特徴を復習する。	2
第 4 回	性別とジェンダー	ジェンダーとは何かを調べておく。 性別とジェンダーとの違い、ジェンダーに関する社会問題を復習する。	2
第 5 回	現代日本における恋愛と結婚	結婚の意義とは何かを調べておく。 日本における非婚化・晩婚化の現状やその要因を復習する。	2
第 6 回	現代日本における貧困問題	子どもの貧困についてインターネットで調べておく。 日本における貧困の現状やその要因を復習する。	2
第 7 回	情報化と現代の民主主義	日頃、どんなインターネット記事を見ているか確認する フェイクニュースと民主主義の関係について復習する	2
第 8 回	現代日本における資本主義と宗教の世俗化	キリスト教とはどのような宗教かを調べておく。 資本主義とキリスト教との関係を復習する。	2
第 9 回	社会的自己の構造	相互作用とは何かを調べておく。 人間の自己と社会との関係を復習する。	2
第 10 回	逸脱とラベリング	ラベリングとは何かを調べておく。 逸脱の社会的意味、ラベリングに関連する社会問題復習する。	2
第 11 回	文化と再生産	機会の平等と結果の平等の違いを調べる。 社会における階層の再生産と、そこで文化の果たす役割について復習する。	2
第 12 回	差別と平等	アフターマティフ・アクションとは何かを調べておく。 教育における機会の平等に関連する社会問題を復習する。	2
第 13 回	環境危機と社会の危機	環境危機についてインターネットで調べる。 環境危機がもたらす社会的影響について復習する	2
第 14 回	ここまでのまとめと試験に関する説明	これまでの配布資料を読み返し、論点をまとめておく。 試験に向けて内容を整理する。	2

5	現代社会論	FGE-CCS-342	選択 2単位 2 年前期
	Modern Sociology		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 我妻 秀栄			
授業の達成目標			
日本社会が高度経済成長のなかでいかに変容してきたのかについて理解し、現代日本社会の特徴を理解するための視点を養う。			
ミニマムリクワイアメント			
現代の日本社会に存在する諸課題を把握した上で、その原因を個人的な要因に還元するのではなく、社会的な背景から理解できるようになる。			
授業の概要			
日本社会は戦後の高度経済成長を通して大きく変貌を遂げてきた。本講義では、私たちが生きている現代日本社会の成り立ちや特徴を理解することを目的に、高度経済成長が私たちの生活にもたらした変化、その意味について探求する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
授業ごとにプリントを配布し、それにしたがって授業を進めるため、教科書は使用しない。			
参考書等			
参考図書については授業内容に関連するものを適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
課題レポートと期末試験によって総合的に評価する。レポートと期末試験の実施方法や詳しい点数配分については講義内で説明する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題などについては、LMSを用いてフィードバックをするか、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

5	現代社会論	FGE-CCS-342	選択 2単位 2 年前期
	Modern Sociology		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	シラバスを通読した上で、不明な語句等を調べておく。 社会学の基本的な立場やその視点について復習する。	2
第 2 回	近現代の日本社会概説	高度経済成長とは何かを調べておく。 高度経済成長期の日本に起きた変化を復習する。	2
第 3 回	現代日本における家族	近代家族とは何かを調べておく。 講義で学んだ家族の特徴を復習し自分なりの意見を持つ。	2
第 4 回	ジェンダーとは何か	ジェンダーとは何かを調べておく。 ジェンダーに関する問題について復習し、自分なりの意見を持つ。	2
第 5 回	現代日本における社会問題 (1)	講義内で予告したテーマについて調べておく。 講義内で扱ったテーマについて自分なりの意見を持つ。	2
第 6 回	現代日本における労働問題	労働問題についてインターネットで調べておく。 日本における労働・貧困の現状を復習し、自分なりの意見を持つ。	2
第 7 回	情報化・メディアと現代日本	現代日本におけるメディアの利用状況を確認する。 メディアと日本社会の関わりについて復習し、自分なりの意見を持つ。	2
第 8 回	現代日本における宗教	日本における宗教の状況について調べておく。 講義で学んだことをふまえ、宗教について自分なりの意見を持つ。	2
第 9 回	現代日本における社会構造と自己	日本の社会構造と自己の関係について調べておく。 自己と社会との関係について復習する。	2
第 10 回	現代日本における社会問題 (2)	講義内で予告したテーマについて調べておく。 講義内で扱ったテーマについて自分なりの意見を持つ。	2
第 11 回	現代日本における経済と社会生活	現代日本社会の経済状況について調べる。 経済と社会生活について復習し、自分なりの意見を持つ。	2
第 12 回	現代日本における教育という問題	現代日本における教育環境について調べておく。 教育問題について復習し、自分なりの意見を持つ。	2
第 13 回	現代日本における科学技術と環境	日本における科学技術、環境問題について調べる。 科学技術・環境危機がもたらす影響について復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでの配布資料を読み返し、論点をまとめておく。 試験内容について復習をする。	2

6	市民と法	FGE-CCS-411	選択 2単位 2年後期
Introduction to Law			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 2 年全組 片山 文雄			
授業の達成目標			
(1) 法の体系性を理解する。 (2) 民事裁判、刑事裁判の基本構造の違いを理解する。 (3) 日本法のあり方から、日本社会の特徴について一定の意見をもつ。			
ミニマムリクワイアメント			
達成目標の(1)(2)とする。			
授業の概要			
社会が複雑化するなか、トラブル解決の手段としての法・裁判はますます重要になっている。裁判員制度のように、市民が法・裁判にいつそう深くかかわる機会もふえてきた。本講義では、法・裁判のしくみと法的な考え方について、具体的に、根本から考える。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作プリントによる。			
参考書等			
教室で紹介する。			
成績評価方法・基準			
LMS上で行う毎回の小テストの累計(40 点)と、期末試験(60 点)による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義開始時の質問などへの応答と、LMS上でフィードバックする。			
備考			

6	市民と法	FGE-CCS-411	選択 2単位 2年後期
Introduction to Law			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	序	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 法、裁判とは何かについて、配付資料などを確認する。	2
第 2 回	法とは何か	(予習) 法とは何かについて調べる。 (復習) 法とは何かについて、配付資料などを確認する。	2
第 3 回	法の種類	(予習) 法の種類について調べる。 (復習) 法の種類について、配付資料などを確認する。	2
第 4 回	裁判とは何か	(予習) 裁判とは何かについて調べる。 (復習) 裁判とは何かについて、配付資料などを確認する。	2
第 5 回	裁判の種類：民事裁判と刑事裁判	(予習) 民事裁判と刑事裁判について調べる。 (復習) 民事裁判と刑事裁判について、配付資料などを確認する。	2
第 6 回	民事裁判 その実体 (1) 契約	(予習) 契約について調べる。 (復習) 契約について、配付資料などを確認する。	2
第 7 回	民事裁判 その実体 (2) 物権、不法行為	(予習) 物権、不法行為について調べる。 (復習) 物権、不法行為について、配付資料などを確認する。	2
第 8 回	民事裁判 その手続	(予習) 民事裁判の手続について調べる。 (復習) 民事裁判の手続について、配付資料などを確認する。	2
第 9 回	刑事裁判 その実体 (1) 犯罪	(予習) 刑事裁判における犯罪について調べる。 (復習) 刑事裁判における犯罪について、配付資料などを確認する。	2
第 10 回	刑事裁判 その実体 (2) 刑罰	(予習) 刑事裁判における刑罰について調べる。 (復習) 刑事裁判における刑罰について、配付資料などを確認する。	2
第 11 回	刑事裁判 その手続 (1) 捜査	(予習) 刑事裁判における捜査について調べる。 (復習) 刑事裁判における捜査について、配付資料などを確認する。	2
第 12 回	刑事裁判 その手続 (2) 起訴から判決まで	(予習) 刑事裁判の起訴から判決までの流れについて調べる。 (復習) 刑事裁判の起訴から判決までの流れについて、配付資料などを確認する。	2
第 13 回	裁判所・裁判官	(予習) 裁判所や裁判官について調べる。 (復習) 裁判所や裁判官について、配付資料などを確認する。	2
第 14 回	裁判員制度	(予習) 裁判員制度について調べる。 (復習) 裁判員制度について、配付資料などを確認する。	2

7	暮らしと心理学	FGE-CCS-412	選択 2単位 2年後期
Industrial Society and Psychology			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科2年全組 小川 和久			
授業の達成目標			
(1) 日常生活場面での人間行動を心理学の立場からとらえることで、自己理解と他者理解の視点を学ぶ。 (2) 精神的健康を維持するために、心と身体の関係性を理解するとともに、ストレスに関する理解を深める。 (3) 心理学の視点を身に付け、ストレスの対処法を実生活に活かすことができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(2)とする。			
授業の概要			
パーソナリティ、適応、ストレスの問題等、一般心理学の基礎を知るとともに、人間行動の心理が日々の社会生活とどのように関わっているかを理解していく。とくに現代社会はストレス社会と言われて久しい。メンタルヘルスの問題を理解し、ストレス軽減のために必要な心身のストレスマネジメントの方法を考えていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト 自作資料 参考書・参考資料等 適宜指示			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小レポート課題(50%)、定期試験(50%)にもとづき総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中あるいはLMS上でフィードバックする。			
備考			

7	暮らしと心理学	FGE-CCS-412	選択 2単位 2年後期
Industrial Society and Psychology			
授業計画(各回の学習内容等)			
学習内容(授業方法)		学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	心の健康とは何か	シラバスを読んで授業概要を理解してくる。	2
第2回	パーソナリティ①: 類型論	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第3回	パーソナリティ②: 特性論	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第4回	パーソナリティ③: タイプA行動パターン	「タイプA行動パターン」について調べる。	2
第5回	交流分析: 構造分析・交流パターン分析	「交流分析」について調べる。	2
第6回	欲求と適応①: 欲求階層理論	「欲求階層理論」について調べる。	2
第7回	欲求と適応②: フラストレーション反応	「フラストレーション」について調べる。	2
第8回	欲求と適応③: 葛藤	「葛藤」について調べる。	2
第9回	ストレスの概念	「ストレスの概念」について調べる。	2
第10回	ストレス理論	「ストレス理論」について調べる。	2
第11回	リフレーミング	「リフレーミング」について調べる。	2
第12回	ストレスと心身症	「心身症」について調べる。	2
第13回	コーピング	「コーピング」について調べる。	2
第14回	心理療法とストレスマネジメント(まとめと試験)	「ストレスマネジメント」について調べる。	2
		ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2

8	産業社会と心理学	FGE-CCS-512	選択 2単位 3 年前期
Industrial Society and Psychology			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
	○ アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
全学科 3 年全組 小川 和久			
授業の達成目標			
(1) 幸福で安全な人間社会をつくるため、心理学が果たす役割を理解する。 (2) 人間行動の基礎を理解することで、ヒューマンエラーや産業事故の発生メカニズムを理解する。 (3) ヒューマンエラーや産業事故の防止に向けた問題解決案を具体的に提示することができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(2)とする。			
授業の概要			
この授業では、知覚、認知、注意、態度、適性など、主に認知心理学、産業心理学、交通心理学、社会心理学のトピックスを取りあげながら、産業事故の背景にある人間側の要因を理解していく。また、産業社会の安全を維持するための心理学アプローチについて考察する。さらに、人間行動の基礎を理解するために、簡便な心理実験を複数回実施する。自ら実験材料を作成し実験を実施するなど、能動的な体験学習を通して、人間行動の原理についての発見学習を促していく。またグループ作業による共同でのデータ整理と分析を通して、課題探求の意識を深めていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキスト 自作資料 参考書・参考資料等 適宜指示			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小レポート課題 (50%)、定期試験 (50%) にもとづき総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中あるいはLMS上でフィードバックする。			
備考			

8	産業社会と心理学	FGE-CCS-512	選択 2単位 3 年前期
Industrial Society and Psychology			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	知覚のしくみ①: ものの見え方	シラバスを読んで授業概要を理解してくる。	2
第 2 回	知覚のしくみ②: 錯視の現象	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第 3 回	知覚のしくみ③: 知覚と安全	「錯視」について調べる。	2
第 4 回	知覚のしくみ④: 奥行知覚	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第 5 回	注意とは①: 注意の種類と特徴	「奥行知覚」について調べる。	2
第 6 回	注意とは②: 注意の範囲	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第 7 回	注意とは③: 選択的注意・分割的注意	「注意」について調べる。	2
第 8 回	注意とは④: 視覚的注意	「注意の理論」について調べる。	2
第 9 回	動作と反応①: 反応時間	「視覚的注意」について調べる。	2
第 10 回	動作と反応②: 反応時間と安全	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第 11 回	動作と反応③: 知覚ー運動系の協応	「反応時間」について調べる。	2
第 12 回	認知と態度: リスクテイキングの心理	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2
第 13 回	ヒューマンエラー①: 産業事故	「リスクテイキング」について調べる。	2
第 14 回	ヒューマンエラー②: 認知モデル (まとめと試験)	ノート・配付資料などを確認し、授業内容を振り返る。	2

9	産業社会と倫理	FGE-CCS-513	選択 ※C 学科のみ必修 2単位 3 年前期
Industrial Society and Ethics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 廣瀬 寛			
授業の達成目標			
倫理観をもって専門技術を応用し、人類福祉の実現、社会の持続・発展に貢献する人材となるための基本的資質を身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
技術者はもちろん、社会人一般が直面する現代の倫理的問題を概観し、法的・倫理的なルールを理解する。			
授業の概要			
産業、工学が社会および地球環境に及ぼす効果、価値に関する理解や責任など、それらに関わる者として社会に対する責任を自覚する能力を身につける。産業や工学の究極目的が人類の福祉の実現であること、また産業に携わる者や技術者の倫理観の欠如が、福祉とは逆に、社会および地球環境にとって大きな問題を生ぜしめている現状を理解する。ついで具体的な事例における倫理的な価値判断の方法を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。			
参考書等			
理系のための科学技術者倫理 JABEE基準 対応 直江清隆・盛永審一郎編 丸善出版 2015			
成績評価方法・基準			
試験およびレポートを総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートに示唆的な論点や問題点があれば、適宜授業で紹介する。			
備考			

9	産業社会と倫理	FGE-CCS-513	選択 ※C 学科のみ必修 2単位 3 年前期
Industrial Society and Ethics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 2 回	産業社会における技術者の倫理と責任 概説	配付資料 (ガイダンス) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 3 回	倫理的判断の方法	産業社会における技術者の倫理と責任に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 4 回	技術者の責任	配付資料 (産業社会における技術者の倫理と責任 概説) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 5 回	社会の中の技術者Ⅰ	倫理的判断の方法に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 6 回	社会の中の技術者Ⅱ	配付資料 (倫理的判断の方法) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 7 回	地球環境問題と技術者Ⅰ	技術者の責任に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 8 回	地球環境問題と技術者Ⅱ	配付資料 (技術者の責任) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 9 回	プロフェッショナルとしての技術者Ⅰ	社会の中の技術者Ⅰに関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 10 回	プロフェッショナルとしての技術者Ⅱ	配付資料 (社会の中の技術者Ⅰ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 11 回	地域の中の技術者Ⅰ	関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 12 回	地域の中の技術者Ⅱ	配付資料 (地域の中の技術者Ⅰ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 13 回	研究者としての責任と倫理	配付資料 (地域の中の技術者Ⅱ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	研究者としての責任と倫理に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
		配付資料 (研究者としての責任と倫理) などを確認して講義内容を復習する。	2
		第 1 - 13 回の内容を復習し試験に備える。	2
		試験を復習する。	2

10	産業社会と倫理	FGE-CCS-513	選択 ※C課程のみ必修 2単位 3 年前期
Industrial Society and Ethics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 古賀 高雄			
授業の達成目標			
倫理観をもって専門技術を応用し、人類福祉の実現、社会の持続・発展に貢献する人材となるための基本的資質を身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、科学技術をめぐる倫理的な考え方について知識と理解を得ることである。			
授業の概要			
産業、工学が社会および地球環境に及ぼす効果、価値に関する理解や責任など、それらに関わる者として社会に対する責任を自覚する能力を身につける。産業や工学の究極目的が人類の福祉の実現であること、また産業に携わる者や技術者の倫理観の欠如が、福祉とは逆に、社会および地球環境にとって大きな問題を生ぜしめている現状を理解する。ついで具体的な事例における倫理的な価値判断の方法を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。			
参考書等			
理系のための科学技術者倫理 JABEE基準 対応 直江清隆・盛永審一郎編 丸善出版 2015			
成績評価方法・基準			
試験およびレポートを総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートに示唆的な論点や問題点があれば、適宜授業で紹介する。			
備考			

10	産業社会と倫理	FGE-CCS-513	選択 ※C課程のみ必修 2単位 3 年前期
Industrial Society and Ethics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 2 回	産業社会における技術者の倫理と責任 概説	配付資料 (ガイダンス) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 3 回	倫理的判断の方法	産業社会における技術者の倫理と責任に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 4 回	技術者の責任	配付資料 (産業社会における技術者の倫理と責任 概説) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 5 回	社会の中の技術者Ⅰ	倫理的判断の方法に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 6 回	社会の中の技術者Ⅱ	配付資料 (倫理的判断の方法) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 7 回	地球環境問題と技術者Ⅰ	技術者の責任に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 8 回	地球環境問題と技術者Ⅱ	配付資料 (技術者の責任) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 9 回	プロフェッショナルとしての技術者Ⅰ	社会の中の技術者Ⅰに関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 10 回	プロフェッショナルとしての技術者Ⅱ	配付資料 (社会の中の技術者Ⅰ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 11 回	地域の中の技術者Ⅰ	関連するキーワードについて調べて予習する。	2
第 12 回	地域の中の技術者Ⅱ	配付資料 (地域の中の技術者Ⅰ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 13 回	研究者としての責任と倫理	配付資料 (地域の中の技術者Ⅱ) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	研究者としての責任と倫理に関連するキーワードについて調べて予習する。	2
		配付資料 (研究者としての責任と倫理) などを確認して講義内容を復習する。	2
		第 1 - 13 回の内容を復習し試験に備える。	2
		試験を復習する。	2

11	ビジネスマナー Business Manners	FGE-CCS-541	選択 2単位 3 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
全組 浅野 純子			
授業の達成目標			
人間力を磨き、社会で活躍するための基礎を学習します。社会人として活躍する上で重要な基本マナーやコミュニケーション力、考え方を身につけます。ビジネスマナーと並行し、将来を決める就職活動の必勝法も学びます。自分の能力を活かし、将来安定した人生を送るために必要な基礎知識を実践的な授業で習得します。			
ミニマムリクワイアメント			
継続的に必要とされる人財になるための基本マナーと言葉遣いなどの自己表現力を身につける。資質や能力、可能性の活かし方を考え、道を切り開く力をつける。社会で成功するために必要な要素を習慣化する。			
授業の概要			
自分自身を見つめ、社会性をもつ人間としての基本を学ぶ。また、仕事への取り組み方やより良い人間関係など、社会人として生きる上で大切な事を学習する。			
実務経験を活かした教育について			
担当講師は、企業での秘書業務や各種企業・団体での講演と研修講師を数多く歴任した長年にわたる指導実績を基に講義に取り入れている。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
ビジネスマナーの試験問題 70%・面接実践 30%			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
試験の評価等については授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

11	ビジネスマナー Business Manners	FGE-CCS-541	選択 2単位 3 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	能力を出すコツ・健康管理・正しい姿勢・重心・立ち方・お辞儀・挨拶・立ち居振る舞い・歩き方・名刺交換	挨拶・立ち居振る舞いに大切なポイントを考え実践 お辞儀・挨拶・歩き方など学んだことを体得する	0.5 0.5
第 2 回	笑顔・目力・滑舌・成功するための 7 つの習慣・身だしなみ・リクルートスーツ・カラーと洋服のマナー	自分のイメージアップに必要な事を持ち物リスト作成 目力・笑顔・滑舌・成功のための 7 つの習慣を体得する	0.5 0.5
第 3 回	自分に似合う色の見つけ方・言葉遣いの習得による効果・敬語・職場用語・ビジネス会話・言葉遣いテスト	自分の話し方や言葉遣いのクセを書き出す 敬語・職場用語・接遇用語を繰り返し音読し習得する	0.5 0.5
第 4 回	間違いやすい言葉遣い・言葉の使い方・クッション言葉・接遇用語とご案内・接遇での正しい敬語表現	敬語の資料を繰り返し音読をする 正しい言葉遣い・クッション言葉・接遇用語を音読	0.5 0.5
第 5 回	電話の特性・電話対応の基本・求人応募時の電話対応・電話の基本応対とケース別対応・ロールプレイング	笑顔で話す習慣・敬語と正しい言葉遣いの習得 電話対応の基本・ケース別対応の資料を音読	0.5 0.5
第 6 回	就職活動必勝法・面接合格ポイント・基本の挨拶の習得・シーン別挨拶言葉の習得・面接質問例の答え方	自分の強み・自分が好きな事・関心がある事の分析 笑顔でハキハキと自分の考えを分かりやすく話す練習	0.5 0.5
第 7 回	就職率が高い秘訣・コミュニケーション成功のポイント・面接の流れ・面接の実践練習・履歴書の準備	面接質問に答えられるよう自己分析をし準備 面接での答え方を練習し自信をつける	0.5 0.5
第 8 回	東北工業大学の履歴書・履歴書の書き方・書類選考合格の秘訣・面接実践練習・合格への道	履歴書を作成できるように準備をする 書類選考で通る履歴書を完成させる	0.5 0.5
第 9 回	想定外の質問への対応・価値観・会社選びの優先順位・自己ライフサイクルシート・ブラック企業の見極め	一番大切だと思う事・仕事選びの優先順位を書 自分の人生の計画・価値観・仕事選びをまとめる	0.5 0.5
第 10 回	ビジネスマナー問題・ビジネスマナー問題の解答・解説 ビジネスマナーポイント・試験の目的と説明	自分が習慣にしたいマナー・改善したいマナーを書く ビジネスマナーのポイントをしっかり覚える	0.5 0.5
第 11 回	人間力・社会人の心構えとプロ意識・職場のマナー・報告連絡相談の仕方・会社の役職と組織・役割	普段から連絡や報告を習慣にする 社会人としての心構えやマナーを習慣にし身につける	0.5 0.5
第 12 回	選択と決断力・クレーム対応と事例・ビジネス文書・添え状とお礼状・メールの書き方・敬称・押印・呼称	決断と実行を早くする実践を行う 添え状とお礼状の下書きを書く	0.5 0.5
第 13 回	心のマネジメント・魅力的なパーソナリティ・席次・より良い人間関係を築くために・訪問・お茶の接遇	人間関係を良くするために実践していることを書く 心のマネジメントと魅力的なパーソナリティの音読習慣	0.5 0.5
第 14 回	評価方法の説明・ビジネスでの査定・冠婚葬祭のマナー・食事のマナー・乾杯とお祝いの挨拶・万歳と締めめの作	冠婚葬祭や食事のマナーについて不明な点を書き出す 冠婚葬祭・食事のマナーなどについて習得をする	0.5 0.5

12	日本国憲法	FGE-CCS-542	選択 2単位 3 年前期
The Constitution of Japan			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 3 年全組 片山 文雄			
授業の達成目標			
(1) 近代的・立憲的憲法の特徴と基本構造を理解する。 (2) 統治構造と人権保障の概要を理解する。 (3) 統治構造と人権保障のあり方から、日本社会の特徴について一定の意見をもつ。			
ミニマムリクワイアメント			
達成目標の(1) (2) とする。			
授業の概要			
いま憲法をめぐる議論は極めて重要な政治的論点になっている。憲法の基本と役割を知ることはますます必要である。本講義では、憲法とは何か、その機能は何かについて、具体的に、根本から考える。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
日本国憲法の全文（講談社学術文庫版を推奨する）、『憲法判例集』（有斐閣新書）に加えて、毎回配付する自作プリントによる。 日本国憲法（講談社学術文庫） 講談社 2013 憲法判例集（第11版、有斐閣新書） 野中俊彦、江橋崇、渋谷秀樹（補訂）有斐閣 2016			
参考書等			
教室で紹介する。			
成績評価方法・基準			
LMS上で行う毎回の小テストの累計（40 点）と、期末試験（60 点）による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義開始時の質問への応答と、LMS上でフィードバックする。			
備考			

12	日本国憲法	FGE-CCS-542	選択 2単位 3 年前期
The Constitution of Japan			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	序	（予習）シラバスを読んでくる。 （復習）憲法の本質について、配付資料などを確認する。	2
第 2 回	憲法の原理：立憲主義と民主主義	（予習）立憲主義と民主主義について調べる。 （復習）立憲主義と民主主義について、配付資料などを確認する。	2
第 3 回	日本国憲法成立史	（予習）日本国憲法成立の歩みについて調べる。 （復習）日本国憲法成立の歩みについて、配付資料などを確認する。	2
第 4 回	国民主権	（予習）国民主権について調べる。 （復習）国民主権について、配付資料などを確認する。	2
第 5 回	国会	（予習）国会について調べる。 （復習）国会について、配付資料などを確認する。	2
第 6 回	内閣	（予習）内閣について調べる。 （復習）内閣について、配付資料などを確認する。	2
第 7 回	裁判所	（予習）裁判所について調べる。 （復習）裁判所について、配付資料などを確認する。	2
第 8 回	人権の原理	（予習）基本的人権の原理について調べる。 （復習）基本的人権の原理について、配付資料などを確認する。	2
第 9 回	人権保障の方法：選挙と司法審査	（予習）人権保障について調べる。 （復習）人権保障について、配付資料などを確認する。	2
第 10 回	自由権（1）包括的自由権、表現の自由	（予習）包括的自由権、表現の自由などについて調べる。 （復習）包括的自由権、表現の自由などについて、配付資料などを確認する。	2
第 11 回	自由権（2）信教の自由・政教分離、人身の自由	（予習）信教の自由・政教分離、人身の自由について調べる。 （復習）信教の自由・政教分離、人身の自由について、配付資料などを確認する。	2
第 12 回	自由権（3）経済的自由権、平等権、参政権	（予習）経済的自由権、平等権、参政権について調べる。（復習）配付資料などを確認する。 （復習）経済的自由権、平等権、参政権について、配付資料などを確認する。	2
第 13 回	社会権、義務	（予習）社会権、義務について調べる。 （復習）社会権、義務について、配付資料などを確認する。	2
第 14 回	平和主義	（予習）平和主義について調べる。 （復習）平和主義について、配付資料などを確認する。	2

13	科学思想史	FGE-CCS-543	選択 2単位 3 年前期
History of Scientific Thought			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 高橋 秀太郎			
授業の達成目標			
科学の思想そのものが問われ、科学と社会の関係、文明における科学の役割が問題とされている現在、古代・中世から近代、現代に至るまでの科学の発達の歴史を、その時代の社会的・思想的諸条件との関連を踏まえて理解できるようにする。			
ミニマムリクワイアメント			
科学の思想の展開及び現代における課題を歴史的に把握・理解することができる。			
授業の概要			
社会の発展は科学によって支えられてきたが、科学の発展もまた社会と緊密な関係を取り結んでいる。科学との連携がいつそう重要となった現代社会の問題を考えるために、本講義では、科学と思想・宗教・文化との関わりを歴史的にみていくこととする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使用しない。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
試験およびレポートを総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

13	科学思想史	FGE-CCS-543	選択 2単位 3 年前期
History of Scientific Thought			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	イントロダクション	関連するキーワードについて調べて予習する	2
第 2 回	古代の科学 (I) : 先史時代からギリシア科学	配付資料 (古代ギリシアの科学) などを確認して講義内容を復習する。 「先史時代からギリシア科学」に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (先史時代からギリシア科学) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 3 回	古代の科学 (II) : ローマ、イスラーム、中国の科学	ローマ、イスラーム、中国の科学に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (ローマ、イスラーム、中国の科学) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 4 回	中世の科学とルネサンスと科学革命	中世の科学とルネサンスと科学革命に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (中世の科学とルネサンスと科学革命) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 5 回	近代科学の成立と展開	近代科学の成立と展開に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (近代科学の成立と展開) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 6 回	博物学の時代	博物学の時代に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (博物学の時代) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 7 回	科学の専門化と職業化	科学の専門化と職業化に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (科学の専門化と職業化) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 8 回	科学・技術の時代の到来	科学・技術の時代の到来に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (科学・技術の時代の到来) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 9 回	現代社会における科学・技術	現代社会における科学・技術に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (現代社会における科学・技術) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 10 回	日本の科学思想 (I) : 江戸時代と「博学」	江戸時代と「博学」に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (江戸時代と「博学」) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 11 回	日本の科学思想 (II) : 江戸時代と「開物」	江戸時代と「開物」に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (江戸時代と「開物」) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 12 回	日本の科学思想 (III) : 帝国主義と「科学」	帝国主義と「科学」に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (帝国主義と「科学」) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 13 回	日本の科学思想 (IV) : 科学論から見た日本の思想	科学論から見た日本の思想に関連するキーワードについて調べて予習する。 配付資料 (科学論から見た日本の思想) などを確認して講義内容を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	第 1 - 13 回の内容を復習し試験に備える。試験を復習する。 試験内容について復習をする	2

14	情報社会の経済	FGE-CCS-641	選択 2単位 3年後期
Information Society Economics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 舩谷 謙二			
授業の達成目標			
情報化社会における基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状を分析する力を養います。			
ミニマムリクワイアメント			
情報化社会における基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状を理解することができる。			
授業の概要			
構造改革、累積する国債、少子・高齢化と年金といった問題が山積している日本経済は、この先、安定的な成長路線に復帰できるのだろうか。この講義では、戦後の復興期、高度成長期から平成の「失われた 20 年」までを振り返りながら、第9 回までは日本経済、それ以降は日本企業の全体像を解説し、金融・財政の仕組みにも言及しながら、今日の我々をとりまく経済の諸問題について考察する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は使わず、毎回プリントを配付し、それにしがって講義を進めます。映像資料も使います。			
参考書等			
参考書がある場合は講義中に紹介します。			
成績評価方法・基準			
課題レポート (50%) と内容理解度確認問題 (50%) で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

14	情報社会の経済	FGE-CCS-641	選択 2単位 3年後期
Information Society Economics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	今日の情報化社会と経済 (オリエンテーション)	シラバス通読の上、準備学習を行う。	2
第 2 回	日本と世界の経済の概況	配付プリント再確認。第 1 回講義内容確認問題解答。	2
第 3 回	戦後日本経済の歩み (復興期を中心に)	プリント「日本と世界の経済の概況」を使い予習。	2
第 4 回	高度経済成長の時代	プリント再確認。第 2 回講義内容確認問題解答。	2
第 5 回	ニクソン・ショックとオイルショック	プリント「戦後日本経済の歩み」を使い予習。	2
第 6 回	貨幣と金融システム	プリント再確認。第 3 回講義内容確認問題解答。	2
第 7 回	バブル経済の発生と崩壊	プリント「高度経済成長の時代」を使い予習。	2
第 8 回	失われた20年・30年	プリント再確認。第 4 回内容確認問題解答。	2
第 9 回	世界経済危機と日本経済	プリント「ニクソン・ショックとオイルショック」を確認。	2
第 10 回	情報社会の企業経営	プリント再確認。第 5 回内容確認問題解答。	2
第 11 回	企業経営とヒト・モノ	プリント「貨幣と金融システム」を使い予習。	2
第 12 回	企業の投資決定 (資産選択)	プリント再確認。第 6 回内容確認問題解答。	2
第 13 回	企業統治と社会的責任	プリント「バブル経済の発生と崩壊」を使い予習。	2
第 14 回	まとめ (振り返りと展望) ・これからの日本経済	プリント再確認。第 7 回内容確認問題解答。	2
		プリント「失われた 20 年・30年」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 8 回内容確認問題解答。	2
		プリント「世界経済危機と日本経済」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 9 回内容確認問題解答。	2
		プリント「情報社会の企業経営」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 10 回内容確認問題解答。	2
		プリント「企業経営とヒト・モノ」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 11 回内容確認問題解答。	2
		プリント「企業の投資決定 (資産選択)」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 12 回内容確認問題解答。	2
		プリント「企業統治と社会的責任」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 13 回内容確認問題解答。	2
		プリント「まとめ (振り返りと展望) ・これからの日本経済」を使い予習。	2
		プリント再確認。第 14 回内容確認問題解答。	2

15	フランスの文化と言葉	FGE-CCS-661	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of France			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 玉田 優花子			
授業の達成目標			
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
フランスについて理解した内容をもとに、周囲と意見を交換しつつ各回のワークシートを作成することができる。小テストは半分以上で得点できる。学んだ挨拶表現を使って周囲の人と簡単なやりとりができる。			
授業の概要			
フランスの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なフランス語文法、会話を学び、フランスという国についての理解をさらに深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
【補足事項】「フランスの歴史・文化・社会」および「言語学習」については随時資料を配布する。挨拶表現については内容を毎回板書して紹介する。			
参考書等			
適宜紹介する。			
成績評価方法・基準			
ワークシートの完成度50%、発音・数字・動詞に関する小テスト20%、14回目に実施する挨拶表現の確認小テスト30%、合計60点以上の得点を評価基準とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
【課題や試験等に対するフィードバック方法】ワークシートは授業内で回収し、添削した上で次回授業時に提出者に返却する。その際全体に対するフィードバックも行う。小テストは授業開始時に実施し、用紙回収後に解答と解説を行う。			
備考			

15	フランスの文化と言葉	FGE-CCS-661	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of France			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	シラバスの通読	2
第2回	フランス文化とフランス語 概論	ガイダンス内容の復習	2
第3回	●フランス語の基礎① 挨拶 ●フランスと日本の比較 文化・習慣全般	日本にあるフランス由来のものを調べる フランス(語)と日本(語)の違いと共通点を再確認する	2
第4回	●フランス語の基礎①ー2 文字 ●フランスと日本の比較 政治	フランス文化の世界的評価を調べる フランス文化・習慣と挨拶について復習する	2
第5回	●フランス語の基礎①ー3 文学と発音 ●フランスと日本の比較 歴史	日本とフランスの現在の政治形態を確認する アルファベについて再確認する	2
第6回	●フランス語の基礎①ー4 文学と発音 ●フランスと日本の交流の歴史	日本とフランスの歴史について調べる フランス語の発音について再確認する	2
第7回	フランス語の基礎①ー5 フランス語で書き、話す(挨拶)	フランスと日本の交流の歴史について調べる フランス語の挨拶を書く練習	2
第8回	●フランス語の基礎②ー1 文の基本的構成 ●フランスと日本の比較 地理	ここまで学んだフランス語の基礎を総復習 フランス語の挨拶を書き、話す練習	2
第9回	●フランス語の基礎②ー2 動詞 ●フランスと日本の比較 産業・スポーツ	フランスの地理的情報について調べる フランス語の文の構成を再確認する	2
第10回	●フランス語の基礎②ー3 名詞 ●フランスと日本の比較 抱えている問題	フランスの食について調べる フランス語の動詞について再確認する	2
第11回	●フランス語の基礎②ー4 冠詞 ●フランスと日本の比較 芸術	フランスの住居について調べる フランス語の名詞について再確認する	2
第12回	●フランス語の基礎②ー5 フランス語で文を書く ●フランスの音楽文化	フランスの教育制度について調べる フランス語の冠詞について再確認する	2
第13回	フランスの映像文化 概説	フランス語の品詞について、総復習 フランス語で文を書く練習	2
第14回	フランスの映像文化 フランス語を聞く	フランスの映像文化について調べる フランス語の挨拶について総復習	2
		フランス語の発音について総復習 授業で学んだフランスの映像文化について復習	2

16	韓国の文化と言葉	FGE-CCS-662	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of South Korea			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科3年全組 宋 貞熹			
授業の達成目標			
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
韓国の社会・言語についての基礎的な知識を身につけている。			
授業の概要			
韓国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な韓国語文法、会話を学び、韓国という国についての理解をさらに深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書指定なし(毎回資料を配布する)			
参考書等			
現代韓国を知るための60章【第2版】 石坂浩一、 福島みのり 編著 明石書店 2014			
成績評価方法・基準			
小テスト (50%)、毎授業の最初に前回の内容を確認する)、課題 (40%)、授業参加度 (10%)、授業中の発言・学習態度など)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト・課題などについては、LMSを用いてフィードバックをするか、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

16	韓国の文化と言葉	FGE-CCS-662	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of South Korea			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	シラバスの通読	2
第2回	韓国文化と韓国語 概論	ガイダンス内容の復習	2
第3回	●韓国語の基礎① 挨拶 ●韓国と日本の比較 文化・習慣全般	日本にある韓国由来のものを調べる 韓国(語)と日本(語)の違いと共通点を再確認する	2
第4回	●韓国語の基礎①ー 2 文字 ●韓国と日本の比較 政治	韓国文化の世界的評価を調べる 韓国文化・習慣と挨拶について復習する	2
第5回	●韓国語の基礎①ー 3 文字と発音 ●韓国と日本の比較 歴史	日本と韓国の現在の政治形態を確認する 韓国語の文字について再確認する	2
第6回	●韓国語の基礎①ー 4 文字と発音 ●韓国と日本の交流の歴史	日本と韓国の歴史について調べる 韓国語の文字と発音について再確認する	2
第7回	韓国語の基礎①ー 5 韓国語で書き、話す(挨拶)	韓国と日本の交流の歴史について調べる 韓国語の文字と発音について再確認する	2
第8回	●韓国語の基礎②ー 1 文の基本的構成 ●韓国と日本の比較 地理	ここまで学んだ韓国語の基礎を総復習 韓国語の挨拶を書き、話す練習	2
第9回	●韓国語の基礎②ー 2 子音 ●韓国と日本の比較 食	韓国の地理的情報について調べる 韓国語の文の構成を再確認する	2
第10回	●韓国語の基礎②ー 3 母音 ●韓国と日本の比較 住居	韓国の食について調べる 韓国語の子音について再確認する	2
第11回	●韓国語の基礎②ー 4 パッチム ●韓国と日本の比較 教育	韓国の住居について調べる 韓国語の母音について再確認する	2
第12回	●韓国語の基礎②ー 5 発音法則 ●韓国の音楽文化	韓国の教育制度について調べる パッチムについて再確認する	2
第13回	●韓国語の基礎②ー 6 数え方(漢数字) ●韓国の映像文化 概説	韓国語の発音について、総復習 韓国語の発音法則について再確認する	2
第14回	●韓国語の基礎②ー 7 数え方(固有数字) ●韓国の映像文化 韓国語を聞く	韓国の映像文化について調べる 韓国語の数え方について総復習	2
		授業で学んだ韓国の映像文化について復習	2

17	韓国の文化と言葉	FGE-CCS-662	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of South Korea			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 黄 孝善			
授業の達成目標			
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
韓国の社会・言語についての基礎的な知識を身につけている。			
授業の概要			
韓国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な韓国語文法、会話を学び、韓国という国についての理解をさらに深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
配布資料使用			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業参加度30%、小テスト20%、レポート50% (授業中に実施した内容のもので自由書き)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト・課題などについては、LMSを用いてフィードバックをする。			
備考			

17	韓国の文化と言葉	FGE-CCS-662	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of South Korea			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンスと資料配布 言葉と文字について	シラバスの通読	2
第2回	韓国語の基本母音の創生原理と発音練習 韓国語の初めて会った場面での挨拶	ガイダンス内容の復習	2
第3回	韓国語の子音の創生原理と基本子音の発音 韓国語の別れる場面での挨拶	日本語の文字と母音について確認 日本語の文字と母音について確認 初めて会った場面での日本語の挨拶の意味を確認 韓国語の母音と発音練習	2
第4回	韓国語のその他の子音とその発音 韓国語の謝る表現	日本語の謝る場面での言葉と意味確認 韓国語の謝る表現	2
第5回	韓国語の合成母音(1)と子音の組み合わせと発音 食事の前・後の韓国語の挨拶表現	日本語の食事の前と後の挨拶表現の意味確認 韓国語の合成母音(1)と子音の組み合わせの発音練習	2
第6回	韓国語の合成母音(2)と子音の組み合わせの発音 人を呼ぶ場面での韓国語の表現	人を呼ぶときの日本語の表現と意味確認 韓国語の合成母音(2)と子音の組み合わせの発音練習	2
第7回	韓国語のバッチムの種類(1)と発音 人を歓迎する場面での韓国語の表現	人を歓迎する場面での日本語の挨拶の意味確認 韓国語のバッチムの種類(1)と発音練習	2
第8回	韓国語のバッチムの種類(2)と発音練習 他人の家を訪問する場面での韓国語の挨拶表現	他人の家を訪問する場面での日本語の挨拶表現の確認 韓国語のバッチムの種類(2)と発音練習	2
第9回	出かける前・帰った後の韓国語の挨拶 朝鮮時代の貴族文化と庶民文化(生活を中心)	日本江戸時代の貴族と庶民文化について確認(生活を中心) 韓国の朝鮮時代と日本の江戸時代の貴族と庶民文化の相違点確認	2
第10回	寝る前と起きた後の韓国語の挨拶表現 韓国の住居と生活環境	日本の住居と生活環境について確認 韓国と日本の住居と生活環境の相違点確認	2
第11回	お祝い場面での韓国語の挨拶 韓国の結婚と葬儀	日本の結婚と葬儀について確認 日本と韓国の結婚と葬儀の相違点確認	2
第12回	感謝の気持ちを伝える場面での韓国語の挨拶 韓国人の宗教について	日本人の宗教について確認 日本と韓国の宗教についての相違点の確認	2
第13回	韓国語での名前を使った自己挨拶表現 韓国の食事礼儀	日本の食事礼儀について確認 日本と韓国の食事礼儀の相違点確認	2
第14回	韓国の映像文化(映像のなかから今まで授業から確認してきた文化や言葉を見つける)	韓国語の挨拶表現について復習 授業で学んだ文化のまとめやレポート準備	2

18	中国の文化と言葉	FGE-CCS-663	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of China			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 佐藤 祐李愛			
授業の達成目標			
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
中国の社会・言語についての基礎的な知識を身につけている。			
授業の概要			
中国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な中国語文法、会話を学び中国という国についての理解をさらに深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
すべての練習問題の記入(平常 10 点)及び期末試験(90 点)を総合して判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

18	中国の文化と言葉	FGE-CCS-663	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of China			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	シラバスの通読	2
第 2 回	中国の社会と日本社会の国民性の比較 概論	ガイダンス内容の復習	2
第 3 回	●中国語の基礎① 挨拶 ●中国と日本の比較 文化・習慣全般	日本にある中国由来のものを調べる	2
第 4 回	●中国語の基礎①ー 2 ビンイン ●中国と日本の比較 政治・教育	中国と日本の違いと共通点を再確認する	2
第 5 回	●中国語の基礎①ー 3 単母音・声調 ●中国と日本の比較 歴史	中国文化の世界的評価を調べる	2
第 6 回	●中国語の基礎①ー 4 挨拶を中国語で書く ●中国と日本の交流の歴史	中国文化・習慣と挨拶について復習する	2
第 7 回	中国語の基礎①ー 5 中国語で書き、話す (挨拶)	日本と中国の現在の政治形態を確認する	2
第 8 回	●中国語の基礎②ー 1 文の基本的構成 ●中国と日本の比較 地理	ビンインについて再確認する	2
第 9 回	●中国語の基礎②ー 2 動詞 ●中国と日本の比較 産業・スポーツ	日本と中国の歴史について調べる	2
第 10 回	●中国語の基礎②ー 3 名詞 ●中国と日本の比較 抱えている問題	中国語の発音について再確認する	2
第 11 回	●中国語の基礎②ー 4 その他の品詞 ●中国と日本の比較 芸術	中国と日本の交流の歴史について調べる	2
第 12 回	●中国語の基礎②ー 5 中国語で文を書く ●中国の音楽文化	中国語の挨拶を書く練習	2
第 13 回	中国の映像文化 概説 期末試験	ここまで学んだ中国語の基礎を総復習	2
第 14 回	中国の映像文化 中国語を聞く	中国語の品詞について、総復習	2
		中国語で文を書く練習	2
		中国の映像文化について調べる	2
		中国語の挨拶について総復習	2
		中国語の発音について総復習	2
		授業で学んだ中国の映像文化について復習	2

19	中国の文化と言葉	FGE-CCS-663	選択 2単位 3 年後期
	Culture and Language of China		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1クラス 服部 徐麗			
授業の達成目標			
多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
中国の社会・言語についての基礎的な知識を身につけている。			
授業の概要			
中国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な中国語文法、会話を学び中国という国についての理解をさらに深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
ビジュアル中国 衛裕群 汪?京 朝日出版社 2015			
参考書等			
成績評価方法・基準			
すべての練習問題の記入（平常20点）及び期末試験（80点）を総合して判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

19	中国の文化と言葉	FGE-CCS-663	選択 2単位 3年後期
Culture and Language of China			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス及び中国語の発音(一)	シラバスの通読・教科書に沿って学習内容確認後、発音(一)を学習、練習問題記入する	2
第2回	中国社会と日本社会の概況比較及び発音(二)	近代史における中国と日本の変化について調べ、発音(二)を学習し、練習問題記入する。	2
第3回	●宗教による日中文化への影響について ●発音(三)	仏教伝来を軸に、両国の文化への影響を調べ、発音(三)を学習、練習問題記入する。	2
第4回	●中国と日本の政治形態について ●発音(四) ●第1課 開学第一天	両国の政治形態について確認し、発音(四)を学習し、練習問題を記入する。第1課を学習し、練習問題を記入する。	2
第5回	●日中比較 教育 ●第2課 中?民族?	両国の教育現況について調べ、発音を復習する。第2課を学習し、練習問題を記入する	2
第6回	●日中比較 民族構成 ●第3課 ?族新年	両国の民族構成について調べ、第3課を学習し、練習問題を記入する	2
第7回	●日中比較 礼儀作法 ●第5課 新家	両国の礼儀作法について調べ、第5課学習し、練習問題を記入する	2
第8回	●これまでの各テーマを復習する ●発音から第5課迄復習する	これまでの各テーマを復習する	2
第9回	●中国の秦朝及び当時の日本について ●第6課 兵馬俑	中国の秦王朝及び同時代の日本について調べ、第6課を学習し、練習問題を記入する	2
第10回	●日中比較 造園技術 ●第10課 蘇州園林	両国の造園技術について調べ、第10課を学習し、練習問題を記入する	2
第11回	●日中比較 祭壇 ●第11課 天壇	両国の祭壇について調べ、第11課を学習し、練習問題を記入する	2
第12回	●日中比較 武道 ●第12課 少林寺	両国の武道について調べ、第12課を学習し、練習問題を記入する	2
第13回	●日中比較 冠婚葬祭 ●総復習	両国の冠婚葬祭について情報確認。	2
第14回	期末試験	筆記部分	2
		朗読、暗記で発表する部分	2

20	異文化理解	FGE-CCS-664	選択 2単位 3 年後期
Cross-cultural studies			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全 クック サイモン			
授業の達成目標			
イギリスの社会、文化、政治、教育、スポーツ、日常生活などに関する知識を得る。また、それらの知識を活用して日本の社会や文化を相対的に理解する視座を獲得する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、イギリスの社会、文化、政治、教育、スポーツ、日常生活について知識を得る。			
授業の概要			
最新の資料を用いてイギリスの社会、文化、政治、教育、スポーツ、日常生活などに関わるトピックについて解説する。また、現地の様々な年齢層の人々へのインタビューを通して現代イギリスの諸問題を考察するとともに、「まとめ」として、授業で取り上げたトピックに関するディスカッションを行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要な場合はハンドアウトを配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業で取り上げたテーマのうちの一つについて、日本語でエッセイを提出する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業では、クラスメートと意見を交換し、発表されたトピックについてノートを作成する必要がある。これらは、最終的なエッセイの準備に必要なものである。授業中、教員は学生の授業への参加状況について定期的にフィードバックする。			
備考			

20	異文化理解	FGE-CCS-664	選択 2単位 3 年後期
Cross-cultural studies			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	コースオリエンテーション 学生は、イギリスのそれぞれの国について、自分の考えや	イギリスのそれぞれの国に関して事前に調べる。	2
第 2 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリスの地理と基本情報につ	イギリスのそれぞれの国について、学んだことを確認する。	2
第 3 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリス人の1日の生活につい	イギリスの地理と基本情報に関して事前に調べる。	2
第 4 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリスの政治システムと最近	イギリスの地理と基本情報について、学んだことを確認する。	2
第 5 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はスコットランドについて学ぶ。	イギリスの政治システムと最近の政治的変化に関して事前に調べる。 イギリスの政治システムと最近の政治的変化について、学んだことを確認する。	2
第 6 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はウェールズ、北アイルランドに	英国を構成する他の国についてのより詳細な調査 #1 スコットランドに関して事前に調べる。	2
第 7 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリスの祝日について学ぶ。	英国を構成する他の国についてのより詳細な調査 #2 ウェールズ、北アイルランドに関して事前に調べる。	2
第 8 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリスの祝日について学ぶ。	イギリスの祝日について、学んだことを確認する。	2
第 9 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はイギリスで行われるスポーツに	イギリスの教育制度に関して事前に調べる。	2
第 10 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はLGBTQと男女平等について	イギリスの教育制度について、学んだことを確認する。	2
第 11 回	教員によるプレゼンテーションと現地の人々へのインタビューを通して、学生はホームレス問題について学ぶ。	イギリスで行われるスポーツに関して事前に調べる。	2
第 12 回	現地の人々が授業に参加し、イギリスでの生活に関する学生からの質問に生で答える。	イギリスで行われるスポーツについて、学んだことを確認する。	2
第 13 回	現地の人々が授業に参加し、イギリスでの生活に関する学生からの質問に生で答える。	社会問題#1 LGBTQと男女平等に関して事前に調べる。	2
第 14 回	授業で学んだことに関するまとめとディスカッションの内容を確認する。	LGBTQと男女平等について、学んだことを確認する。	2
		社会問題#2 ホームレス問題に関して事前に調べる。	2
		ホームレス問題について、学んだことを確認する。	2
		現地の人々のライブチャットとインタビュー#1の準備。	2
		現地の人々の話について、学んだことを確認する。	2
		現地の人々のライブチャットとインタビュー#2の準備。	2
		現地の人々の話について、学んだことを確認する。	2
		授業で学んだことに関するまとめとディスカッションの内容を確認の準備。	2
		コースまとめ	2

21	現代の哲学	FGE-CCS-711	選択 2単位 4 年前期
Modern Philosophy			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 菅原 宏道			
授業の達成目標			
国家論・市民社会論を中心テーマとして西洋近代思想史の流れを辿り、現代社会の理解に役立てる。			
ミニマムリクワイアメント			
日本語で書かれた抽象的な文章を読み書きする基本的なリテラシーがある。			
授業の概要			
17 世紀から 19 世紀にかけての市民革命をめぐる言説を学ぶことで「国家とは何か」「社会とは何か」について問う姿勢を養う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書はありません。各回に配布する講義レジュメに基づいて講義します。			
参考書等			
推奨する参考文献は講義時に適宜に紹介します。質問や相談を受けるオフィスアワーは初回の講義時に伝えます。			
成績評価方法・基準			
課題 (50%) と試験 (50%) で成績を評価します。 課題と試験の評価基準は以下の通りです。(1) 現代の哲学がどのような知的営みであるかを理解できる。(2) 現代の哲学における諸問題をさまざまな考え方や用語などによって理解できる。(3) 現代の哲学における諸問題について、自分自身の主張とその理由を読み手に伝えることができる。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、講義時に全体に対し必要なフィードバックを行います。			
備考			

21	現代の哲学	FGE-CCS-711	選択 2単位 4 年前期
Modern Philosophy			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
導入	哲学と倫理学、近代哲学と現代哲学	シラバスを読み、講義の内容や進め方などを理解しておく。	2
第 1 回		講義後は、学んだことを整理して理解し、以後の講義の基本とする。	2
第 2 回	啓蒙思想と市民革命	近代市民社会の成立について必要に応じて調べておく。	2
第 3 回		講義後は、学んだことを整理して理解し知識や知性として定着させる。	2
第 4 回	現代の哲学の源流1 マルクス主義と社会の構造	マルクス主義について必要に応じて調べておく。	2
第 5 回		講義後は、マルクス主義について学んだことを整理して理解し知識として定着させる。	2
第 6 回	現代の哲学の源流2 ニーチェと近代社会批判	ニーチェの近代批判について必要に応じて調べておく。	2
第 7 回		講義後は、ニーチェの近代批判について学んだことを整理して理解し知識として定着させる。	2
第 8 回	現代の哲学の源流3 社会における市民の主体性	実存思想について必要に応じて調べておく。	2
第 9 回		講義後は、実存思想について学んだことを整理して理解し知識として定着させる。	2
第 10 回	社会と文化における構造の全体	構造主義について必要に応じて調べておく。	2
第 11 回		講義後は、構造主義について学んだことを整理して理解し知識として定着させる。	2
第 12 回	権力および社会秩序の解体	ポスト構造主義について必要に応じて調べておく。	2
第 13 回		講義後は、ポスト構造主義について学んだことを整理して理解し知識として定着させる。	2
第 14 回	社会や学問における真理	プラグマティズムについて必要に応じて調べておく。	2
第 15 回		講義後は、プラグマティズムについて学んだことを整理して理解し知識を養う。	2
第 16 回	現代の国家観と社会観1 帰結主義と義務論	社会における規範について必要に応じて調べておく。	2
第 17 回		講義後は、社会における規範について学んだことを整理して理解し、知識や知性として定着させる。	2
第 18 回	現代の国家観と社会観2 古典的自由主義とリベラリズム	国家における自由と正義について必要に応じて調べておく。	2
第 19 回		講義後は、国家における自由と正義について学んだことを整理して理解し知識を養う。	2
第 20 回	現代の国家観と社会観3 リバタリアニズムとネオプラグマティズム	国家的介入と自治について必要に応じて調べておく。	2
第 21 回		講義後は、国家的介入と自治について学んだことを整理して理解し知識を養う。	2
第 22 回	現代の国家観と社会観4 コミュニタリアニズムと市民的共和主義	共同体における負荷について必要に応じて調べておく。	2
第 23 回		講義後は、共同体における負荷について学んだことを整理して理解し知識を養う。	2
第 24 回	現代の国家観と社会観5 ケイパビリティ・アプローチと基本財	社会福祉国家について必要に応じて調べておく。	2
第 25 回		講義後は、社会福祉国家について学んだことを整理して理解し知識を養う。	2
第 26 回	まとめと試験	これまでの講義内容を俯瞰的に整理し、知識や知性として定着させておく。	2
第 27 回		試験内容の復習を行う	2

22	スタディスキル	FGE-LE-111	必修 1単位 1 年前期
	Study skills		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、全学科全クラス 高橋 秀太郎 大木 葉子 河内 聡子			
授業の達成目標			
大学在学中、並びに社会人となつてから必要となるスタディスキル(学修能力)、特に日本語表現・読解力、分析・考察力、生活管理能力を身につけることを達成目標とする。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目のミニマムリクワイアメントは以下の 3 点とする。 ・正しい日本語表現で文章を書くことができる。 ・分析・考察の基本を理解し、形式の整ったレポートを作成することができる ・大学生生活を記録し、管理することができる。			
授業の概要			
「日本語表現・読解力」、「分析・考察力」、「大学生生活管理能力」を身につけるために、以下の 3 つを学び、講義内外で実践する。 I 「正しく分かりやすい日本語表現」をするために必要な「文章添削・文章構成・敬語」の基礎 II 文章／データの読解・分析、考察の方法 III 大学生生活を記録・管理する方法			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版 米田明美・藏中さやか・山上登志美 風間書房 2010			
参考書等			
成績評価方法・基準			
添削課題(25 点)とテスト 2 回(20 点・25 点)、小テスト 3 回(合計 30 点)により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、返却時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

22	スタディスキル	FGE-LE-111	必修 1単位 1 年前期
	Study skills		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	・講義全体の内容説明 ・ノートテイキングの基本を学ぶ	シラバスの通読 大学生活管理方法の再確認、実践・記録	0.5
第 2 回	「文章添削力を身につける」① 文章添削ポイント説明、話し言葉・漢字の添削練習	課題リスト・予定記入 文章添削ポイント確認	0.5
第 3 回	「文章添削力を身につける」② 助詞・文の添削練習	プリント課題 大学生活管理の実践・記録	0.5
第 4 回	・「文章添削力を身につける」③ 文・文章の添削練習、総合問題	自己説明文・下書き作成 文章添削の仕方の総復習	0.5
第 5 回	・「敬語力を身につける」① 敬語の作り方の基本の再確認	自己説明文・下書き完成 添削課題に取り組む	0.5
第 6 回	・「敬語力を身につける」② 敬語添削力を身につける	「第 1 回小テスト」の勉強	0.5
第 7 回	・「文章読解／分析力を身につける」① 要旨作成練習 1 回目 ★第 1 回小テスト	要旨作成の方法の復習	0.5
第 8 回	「文章読解／分析力を身につける」② 要旨作成練習 2 回目	テキスト課題 (漢字) 大学生活管理の実践・記録	0.5
第 9 回	「文章読解／分析力を身につける」③ 要旨作成練習 3 回目	テキスト課題 (漢字) 要旨作成方法の再確認	0.5
第 10 回	★要旨作成テスト ★第 2 回小テスト	「第 2 回小テスト」の勉強 大学生活管理の実践・記録／大学生生活の時間の使い方を記録する	0.5
第 11 回	レポートの書き方を学ぶ 準備編／ICT を利用した情報収集の基本と注意点	テキスト課題 (四字熟語) 大学生活管理の実践・記録／大学生生活の時間の使い方をまとめ、目標を考える	0.5
第 12 回	「分析・考察力を身につける」① データの分析練習	テキスト課題 (ことわざ・故事成語) 大学生活管理の実践・記録／大学生生活の時間の使い方を再度記録する	0.5
第 13 回	「分析・考察力を身につける」② 分析・考察練習 ★第 3 回小テスト	「第 3 回小テスト」勉強 大学生活管理の実践・記録	0.5
第 14 回	★分析・考察テスト	「分析・考察テスト」勉強 テスト内容の再確認	0.5
	講義内容のまとめ	ここまでの学修内容、大学生生活を振り返る 大学生活管理の実践・記録／夏休みの時間の使い方を考える	0.5

23	英語 I A	FGE-LE-131	必修 1単位 1 年前期
English I A			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 高橋 哲徳 鈴木 淳 設楽 宏二 柴田 尚子 漆原 幸子 星 かおり 丹野 海晴 横田 慎二			
授業の達成目標			
1. 品詞、文の種類、文型、時制などの基礎的な英文法を理解できる。2. 基礎的英文法の理解に基づいて、speaking、listening、writing、reading の四分野において、日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは達成目標の 1 とする。			
授業の概要			
speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて情報の受受信を行うための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文の種類、五文型、時制である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

23	英語 I A	FGE-LE-131	必修 1単位 1 年前期
English I A			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 2 回	英文の基本構成と文の種類：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 3 回	英文の基本構成と文の種類：演習問題	(復習) 英文の基本構成と文の種類に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 4 回	品詞の種類と用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 5 回	品詞の種類と用法：演習問題	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 6 回	文型 (第 1－3 文型)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 7 回	文型 (第 1－3 文型)：演習問題	(復習) 第 1－3 文型に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 8 回	文型 (第 4－5 文型、その他の文型)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 9 回	文型 (第 4－5 文型、その他の文型)：演習問題	(復習) 第 4－5 文型等に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 10 回	時制 (現在、過去、未来時制の諸用法)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 11 回	時制 (現在、過去、未来時制の諸用法)：演習問題	(復習) 現在、過去、未来時制に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 12 回	時制 (進行形、完了形の諸用法)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第 13 回	時制 (進行形、完了形の諸用法)：演習問題	(復習) 進行形、完了形に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 14 回	前期学習内容のまとめと試験	(予習) これまでの学習内容を再確認する。	0.5
		(復習) 前期の学習内容に関して不確実な部分を再確認する。	0.5

24	英会話 I	FGE-LE-141	選択 1単位 2 年前期
English Conversation I			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全学科・全クラス クック サイモン ダレン キンズマン ピンセント スクラ ダニエル ディーン			
授業の達成目標			
The objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.			
ミニマムリクワイアメント			
The minimum requirement of this class is for students to communicate with the teacher and other students using basic English.			
授業の概要			
The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn & share information about themes relevant to students' daily lives, including SDGs. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. Final presentations may be based on student interpretations of SDGs in their lives.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
開拓社 無敵リスニング〈中級〉エイドリアン・リース、サイモン・クック			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester speaking test and presentation.			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

24	英会話 I	FGE-LE-141	選択 1単位 2 年前期
English Conversation I			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	Course introduction & orientation. Stage 1-1 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class	0.5
第 2 回	Stage 1-2 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - general interaction.	Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of creating a collaborative environment. Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 3 回	Stage 1-3 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #1	Vocabulary test. Speaking and listening activities based on the topic	0.5
第 4 回	Stage 1-4 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - keeping the conversation	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 5 回	Stage 1-5 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #2	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #1	0.5
第 6 回	Stage 2-1 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - asking questions.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 7 回	Stage 2-2 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #3	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第 8 回	Stage 2-3 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - giving feedback.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 9 回	Stage 2-4 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #4	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #4	0.5
第 10 回	Stage 2-5 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - changing the topic.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 11 回	Stage 3-1 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #5	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第 12 回	Stage 3-2 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - gestures & other non-verbal communication	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
		Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills. Presentation.	0.5

24	英会話 I	FGE-LE-141	選択 1単位 2 年前期
	English Conversation I		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 13 回	Stage 3-3 of textbook. Vocabulary test. Speaking test	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
		Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics.	0.5
第 14 回	End of semester review. Summary of materials covered during the semester.	Check of understanding of materials covered during the semester.	0.5
		Keeping up with English studies.	0.5

25	英語 I B	FGE-LE-232	必修 1単位 1年後期
	English I B		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	○ クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 高橋 哲徳 鈴木 淳 クック サイモン 設楽 宏二 柴田 尚子 漆原 幸子 丹野 海晴 横田 慎二			
授業の達成目標			
1. 主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較などのより複雑な英文の理解に必要な文法項目を理解できる。2. 上の文法項目の理解に基づいて、speaking、listening、writing、reading の四分野において、日常的場面でコミュニケーションを行うことができる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは達成目標の1とする。			
授業の概要			
speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、長文読解のための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

25	英語 I B	FGE-LE-232	必修 1単位 1年後期
	English I B		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	0.5
第2回	英文の形式と特徴：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 英文の形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第3回	英文の形式と特徴：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第4回	主語と動詞の一致：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 主語と動詞の一致に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第5回	主語と動詞の一致：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第6回	前置詞の諸用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 前置詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第7回	前置詞の諸用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第8回	接続詞の諸用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 接続詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第9回	接続詞の諸用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第10回	比較の表現：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 比較の表現に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第11回	比較の表現：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第12回	助動詞の諸用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 助動詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第13回	助動詞の諸用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第14回	後期学習内容のまとめと試験	(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	0.5

26	英会話 II	FGE-LE-242	選択 1単位 1年後期
English Conversation II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全学科・全クラス クック サイモン ダレン キンズマン			
授業の達成目標			
As with the first semester, the objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.			
ミニマムリクワイアメント			
The minimum requirement of this class is for students to communicate with the teacher and other students using everyday English.			
授業の概要			
In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises and the use of TED talks and SDGs. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. Students will also learn presenting skills, vital for learning to express themselves & their ideas to a wider audience in English. As in the first semester, final presentations may be based on student interpretations of SDGs in their lives.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
開拓社 無敵リスニング〈中級〉エイドリアン・リース、サイモン・クック			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester test and a presentation.			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

26	英会話 II	FGE-LE-242	選択 1単位 1年後期
English Conversation II			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	Course introduction & orientation. Stage 4-1 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of speaking English & creating a collaborative environment.	0.5
第2回	Stage 4-2 of textbook. Vocabulary test. TED Talks #1	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities.	0.5
第3回	Stage 4-3 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. TED talks #2. Presentation practice	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice.	0.5
第4回	Stage 4-4 of textbook. Vocabulary test. TED talks #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities.	0.5
第5回	Stage 4-5 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #2	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice.	0.5
第6回	Stage 5-1 of textbook. Vocabulary test. TED Talks #4	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities.	0.5
第7回	Stage 5-2 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. TED Talks #5. Presentation practice	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice.	0.5
第8回	Stage 5-3 of textbook. Vocabulary test. TED talks #6	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities.	0.5
第9回	Stage 5-4 of textbook. Transcription activity. TED Talks #7. Presentation practice #4	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice.	0.5
第10回	Stage 5-5 of textbook. Vocabulary test. TED talks #8	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation. Presentation practice	0.5
第11回	Stage 6-1 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #5.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice.	0.5
第12回	Stage 6-2 of textbook. Vocabulary test. TED talks #9. Final Presentations.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	0.5

26	英会話Ⅱ	FGE-LE-242	選択 1単位 1年後期
	English ConversationⅡ		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第13回	Vocabulary test. Speaking test.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
		Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics.	0.5
第14回	End of semester review. Summary of materials covered during the semester.	Check of understanding of materials covered during the semester.	0.5
		Keeping up with English studies.	0.5

27	英語Ⅱ A	FGE-LE-333	選択 ※C課程のみ必修 1単位 2 年前期
English II A			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 高橋 哲徳 鈴木 淳 柴田 尚子 漆原 幸子 星 かおり 丹野 海晴			
授業の達成目標			
1. 品詞、文型、時制、受動態、関係詞などの基礎的な英文法を理解できる。2. 英語圏の文化や社会、あるいはビジネスの現場で用いられる TOEIC レベルの英文メール、手紙、広告などの、基本的、実践的内容の英文を理解できる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは達成目標の 1 とする。			
授業の概要			
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づき、TOEIC レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文型、時制、受動態、関係詞である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

27	英語Ⅱ A	FGE-LE-333	選択 ※C課程のみ必修 1単位 2 年前期
English II A			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	0.5
第 2 回	TOEIC の出題形式と特徴：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) TOEIC の出題形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 3 回	TOEIC の出題形式と特徴：模擬試験演習	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 4 回	文型の理解と品詞の判別：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 文型と品詞判別に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 5 回	文型の理解と品詞の判別：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 6 回	可算名詞と不可算名詞：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 可算名詞と不可算名詞に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 7 回	可算名詞と不可算名詞：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 8 回	動詞の変化と時制：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 動詞の変化と時制に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 9 回	動詞の変化と時制：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 10 回	受動態の諸用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 受動態の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 11 回	受動態の諸用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 12 回	関係詞の諸用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 関係詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 13 回	関係詞の諸用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第 14 回	前期学習内容のまとめと試験	(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 前期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	0.5

28	英会話Ⅲ	FGE-LE-343	選択 1単位 2 年前期
English Conversation III			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全学科・全クラス クック サイモン			
授業の達成目標			
Students will learn the skills which will enable them to use English with confidence. Full participation in this class will reward the student with confidence in English to help them succeed in a world in which being able to use English is highly regarded. Students will be expected to work with other students in the class, creating a collaborative environment for all class attendees.			
ミニマムリクワイアメント			
The minimum requirement of this course is for students to communicate with the teacher and other students in English which can be used both inside and outside of class.			
授業の概要			
The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn & share information about themes relevant to students' daily lives, including SDGs. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. Final presentations may be based on student interpretations of SDGs in their lives.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
Step1a Books- Dictogloss in Action -Silver - Adrian Leis, Simon Cooke			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester speaking test and presentation.			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

28	英会話Ⅲ	FGE-LE-343	選択 1単位 2 年前期
English Conversation III			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	Course introduction & orientation. Unit 0 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class	0.5
第 2 回	Unit 1 of textbook. Learning conversation skills - general interaction.	Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of creating a collaborative environment. Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 3 回	Unit 1 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation practice #1	Speaking and listening activities based on the textbook topic Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 4 回	Unit 2 of textbook. Learning conversation skills - keeping the conversation going.	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #1	0.5
第 5 回	Unit 2 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #2	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 6 回	Unit 3 of textbook. Learning conversation skills - asking questions.	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第 7 回	Unit 3 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #3	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 8 回	Unit 4 of textbook. Learning conversation skills - giving feedback.	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第 9 回	Unit 4 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #4	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 10 回	Unit 5 of textbook. Learning conversation skills - changing the topic.	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第 11 回	Unit 5 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #5	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第 12 回	Unit 6 of textbook. Learning conversation skills - gestures & other non-verbal communication. Presentation	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills. Presentation.	0.5

28	英会話Ⅲ	FGE-LE-343	選択 1単位 2 年前期
	English Conversation III		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第13回	Unit 6 of textbook. Vocabulary test. Speaking test	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
		Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics.	0.5
第14回	End of semester review. Summary of materials covered during the semester.	Check of understanding of materials covered during the semester.	0.5
		Keeping up with English studies.	0.5

29	資格英語Ⅰ	FGE-LE-351	選択 1単位 2年前期
English for Specific PurposesⅠ			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 高橋 哲徳 鈴木 淳			
授業の達成目標			
1. 品詞、文の種類、文型、時制、主語と動詞の一致などの英文法の基礎的事項が理解できる。2. 英語の音韻体系の基本的事項が理解できる。3. TOEIC テストへの基礎的対応力を有する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1とする。			
授業の概要			
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いて、TOEIC テストへの基本的な知識と対応能力を身につける。取り上げる文法項目は品詞、文型、時制、準動詞、主語と動詞の一致などの基本的事項や重要イディオムなどであり、400点を目標とした授業を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書、参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。ただし、受講者は、授業期間内に行われる「TOEIC IP テスト」を必ず受験すること。未受験の場合には、単位は認められない。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

29	資格英語Ⅰ	FGE-LE-351	選択 1単位 2年前期
English for Specific PurposesⅠ			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス(授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第2回	TOEIC 対策演習(品詞)解説	(復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	0.5
第3回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第4回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第5回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第6回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第7回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第8回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第9回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第10回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第11回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第12回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第13回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(予習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第14回	TOEIC 対策演習(品詞)演習	(復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5

30	英語ⅡB	FGE-LE-434	選択 ※C課程のみ必修 1単位 2年後期
English II B			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 星 かわり 柴田 尚子 漆原 幸子 丹野 海晴			
授業の達成目標			
1. 分詞、不定詞、動名詞、仮定法などのより高度な英文法に関する知識を持つ。2. 英語圏の文化や社会、あるいはビジネスの現場において用いられる TOEIC レベルの社内通知、表、アンケートなどを含む様々なフォームの英文を理解できる。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1とする。			
授業の概要			
speaking listening writing reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、TOEIC レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、分詞、不定詞、動名詞、仮定法である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

30	英語ⅡB	FGE-LE-434	選択 ※C課程のみ必修 1単位 2年後期
English II B			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス(授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第2回	TOEIC の長文問題の形式と特徴: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第3回	TOEIC の長文問題の形式と特徴: 模擬試験演習	(復習) TOEIC の長文問題の形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第4回	現在分詞の諸用法: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第5回	現在分詞の諸用法: 演習問題	(復習) 現在分詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第6回	過去分詞の諸用法: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第7回	過去分詞の諸用法: 演習問題	(復習) 過去分詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第8回	to 不定詞の諸用法: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第9回	to 不定詞の諸用法: 演習問題	(復習) to 不定詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第10回	動名詞の諸用法: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第11回	動名詞の諸用法: 演習問題	(復習) 動名詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第12回	仮定法の表現: 解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第13回	仮定法の表現: 演習問題	(復習) 仮定法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。	0.5
第14回	後期学習内容のまとめと試験	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
		(復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を再確認する。	0.5

31	英会話Ⅳ	FGE-LE-444	選択 1単位 2年後期
English Conversation IV			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全学科・全クラス ダレン キンズマン			
授業の達成目標			
As with the first semester, the objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.			
ミニマムリクワイアメント			
The minimum requirement of this course is for students to communicate with the teacher and other students in English which can be used in a variety of settings.			
授業の概要			
The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn & share information about themes relevant to students' daily lives, including SDGs. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as the use of TED Talks & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. As with the first semester, final presentations may be based on student interpretations of SDGs in their lives.			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
Siepia Books- Dictogloss in Action -Silver - Adrian Leis, Simon Cooke			
参考書等			
成績評価方法・基準			
Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester speaking test and presentation.			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.			
備考			

31	英会話Ⅳ	FGE-LE-444	選択 1単位 2年後期
English Conversation IV			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	Course introduction & orientation. Unit 0 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class	0.5
第2回	Unit 7 of textbook. Learning conversation skills - general interaction.	Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of creating a collaborative environment. Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第3回	Unit 7 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #1. TED Talks #1	Speaking and listening activities based on the textbook topic Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	0.5
第4回	Unit 8 of textbook. Learning conversation skills - keeping the conversation going.	Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion Presentation practice #1	0.5
第5回	Unit 8 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #2. TED Talks #2	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第6回	Unit 9 of textbook. Learning conversation skills - asking questions.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第7回	Unit 9 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #3. TED Talks #3	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #3	0.5
第8回	Unit 10 of textbook. Learning conversation skills - giving feedback.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第9回	Unit 10 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #4. TED Talks #4	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #4	0.5
第10回	Unit 11 of textbook. Learning conversation skills - changing the topic.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	0.5
第11回	Unit 11 of textbook. Transcription activity. Presentation practice #5. TED Talks #5	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics. Presentation practice #5	0.5
第12回	Unit 12 of textbook. Learning conversation skills - gestures & other non-verbal communication. Presentation practice #6. TED Talks #6	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills. Presentation.	0.5
第13回	Unit 12 of textbook. Vocabulary test. Speaking test	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class. Speaking & listening activities based on the textbook topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Transcription & discussion of group dynamics.	0.5

教養科目

31	英会話Ⅳ	FGE-LE-444	選択 1単位 2 年後期
	English Conversation IV		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 14 回	End of semester review. Summary of materials covered during the semester.	Check of understanding of materials covered during the semester.	0.5
		Keeping up with English studies.	0.5

32	資格英語Ⅱ	FGE-LE-452	選択 1単位 2年後期
English for Specific PurposesⅡ			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 鈴木 淳			
授業の達成目標			
1. 受動態、準動詞、関係詞、仮定法などより複雑な構造の英文が理解できる。2. TOEIC リーディング・セクションの長文問題への対応力を有する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1とする。			
授業の概要			
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いた演習を通して、より複雑な構造の英文を理解する。取り扱う文法事項は、受動態や不定詞、動名詞、分詞、関係詞、仮定法などである。また、重要イディオムや語彙問題の演習を通して、よりスコアに結び付く実践的な力をつける。450 ～ 500 点を目標とした授業内容である。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書、参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。ただし、受講者は、授業期間内に行われる「TOEIC IP テスト」を必ず受験すること。未受験の場合には、単位は認められない。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

32	資格英語Ⅱ	FGE-LE-452	選択 1単位 2年後期
English for Specific PurposesⅡ			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス(授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。	0.5
第2回	TOEIC 対策演習(受動態)解説・演習問題	(予習) 受動態のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第3回	TOEIC 対策演習(不定詞)解説	(予習) 不定詞について、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第4回	TOEIC 対策演習(不定詞)演習問題	(予習) 不定詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第5回	TOEIC 対策演習(動名詞)解説	(予習) 動名詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第6回	TOEIC 対策演習(動名詞)演習	(予習) 動名詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第7回	TOEIC 対策演習(分詞)解説	(予習) 分詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第8回	TOEIC 対策演習(分詞)演習問題	(予習) 分詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第9回	TOEIC 対策演習(関係詞)解説	(予習) 関係詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第10回	TOEIC 対策演習(関係詞)演習問題	(予習) 関係詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第11回	TOEIC 対策演習(比較)解説	(予習) 比較のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第12回	TOEIC 対策演習(比較)演習問題	(予習) 比較に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5
第13回	TOEIC 対策演習(仮定法)解説・演習問題	(予習) 仮定法のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。	0.5
第14回	後期学習内容のまとめと試験	(予習) 試験でできなかった問題を再度解き理解を深める。	0.5
		(復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	0.5

33	資格英語Ⅲ	FGE-LE-553	選択 1単位 3 年前期
	English for Specific Purposes III		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部・全課程、学科 鈴木 淳			
授業の達成目標			
1. TOEIC テストのスコア 500 点以上取得に必要な英文法事項が理解できる。2. TOEIC テストのスコア 500 点以上取得に必要なリスニングおよび英文読解ができる。3. TOEIC テストのスコア 500 点以上取得に必要な各パートへの対応力を有する。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1と2とする。			
授業の概要			
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いて、TOEIC テストの各パートへの対応能力を身につける。実際の授業では、500 点以上を取得するのに必要な文法事項や語彙・重要イディオムなどに関する解説と演習という形で進めていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書、参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
成績は定期試験によって評価する。ただし、受講者は、授業期間内に行われる「TOEIC IP テスト」を必ず受験すること。未受験の場合には、単位は認められない。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に、全員にフィードバックする。			
備考			

33	資格英語Ⅲ	FGE-LE-553	選択 1 単位 3 年前期
	English for Specific Purposes III		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス（授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など）	（予習）未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 （復習）教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	0.5 0.5
第 2 回	TOEIC 対策演習（PART1 写真描写問題）解説	（予習）PART1（写真描写問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART1（写真描写問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。演習問題について、単語の意味、発音を確認する。	0.5 0.5
第 3 回	TOEIC 対策演習（PART1 写真描写問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART1（写真描写問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 4 回	TOEIC 対策演習（PART2 応答問題）解説	（予習）PART2（応答問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART2（応答問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 5 回	TOEIC 対策演習（PART2 応答問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART2（応答問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 6 回	TOEIC 対策演習（PART3 会話問題）解説	（予習）PART3（会話問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART3（会話問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 7 回	TOEIC 対策演習（PART3 会話問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART3（会話問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 8 回	TOEIC 対策演習（PART4 説明文問題）解説	（予習）PART4（説明文問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART4（説明文問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 9 回	TOEIC 対策演習（PART4 説明文問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART4（説明文問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 10 回	TOEIC 対策演習（PART5 短文穴埋め問題、PART6 長文穴埋め問題）解説	（予習）PART5（短文穴埋め問題）や、PART6（長文穴埋め問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART5（短文穴埋め問題）や、PART6（長文穴埋め問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 11 回	TOEIC 対策演習（PART5 短文穴埋め問題、PART6 長文穴埋め問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART5（短文穴埋め問題）、PART6（長文穴埋め問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 12 回	TOEIC 対策演習（PART7 読解問題）解説	（予習）PART7（読解問題）について、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART7（読解問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 13 回	TOEIC 対策演習（PART7 読解問題）演習	（予習）演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 （復習）PART7（読解問題）に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	0.5 0.5
第 14 回	前期学習内容のまとめと試験	（予習）これまでの学習内容を再確認する。 （復習）前期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	0.5 0.5

34	健康・運動科学実習Ⅰ	FGE-MPH-111	選択 1単位 1 年前期
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences Ⅰ			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 1 年全組 高野 淳司 本田 春彦 池田 晃一 伊藤 常久 草野 修治			
授業の達成目標			
生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的に複数種類のスポーツ種目を実践する。健康づくりのための基本的知識を理解し、生活の中に取り入れることを目的とする。			
ミニマムリクワイアメント			
複数種類のスポーツ種目を実践し、健康づくりのための基本的知識を理解することができる。			
授業の概要			
対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通し、健康づくりのための基本的知識を習得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適宜配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
実技に関しては、集団的内容はゲームでの成績、個人的内容は個々の実践能力を持って評価する。また講義等に関しては、授業内でミニテスト等を実施する。それらを総合的に評価することでこの授業の成績とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対し、フィードバックを行う。			
備考			

34	健康・運動科学実習Ⅰ	FGE-MPH-111	選択 1単位 1 年前期
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences Ⅰ			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	カイドダンス (授業概要・成績評価の説明)	授業内容等についてシラバスで確認する	0.5
第 2 回	室内スポーツ:バスケットボール、バドミントン、バレーボール等 (ルール、基礎について)	履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する 授業内で指示された種目のルール、基礎について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく	0.5 0.5 0.5
第 3 回	健康科学講義: 病の起源「がん」	「がん」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 4 回	室内スポーツ:バスケットボール、バドミントン、バレーボール等 (応用技術、試しのゲーム)	授業内で指示された種目の試合進行方法について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく。	0.5 0.5
第 5 回	健康科学講義: 病の起源「心臓病」	「心臓病」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 6 回	室内スポーツ:バスケットボール、バドミントン、バレーボール等 (試合形式)	授業内で指示された種目の審判法について確認しておく 試合の反省をし、課題点について練習をしておく	0.5 0.5
第 7 回	健康科学講義: 「脳卒中」	「脳卒中」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 8 回	屋外スポーツ: サッカー、ソフトボール等 (ルール、基礎について)	授業内で指示された種目のルール、基礎について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく	0.5 0.5
第 9 回	健康科学講義: 「糖尿病」	「糖尿病」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 10 回	屋外スポーツ: サッカー、ソフトボール等 (応用技術、試しのゲーム)	授業内で指示された種目の試合進行方法について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく。	0.5 0.5
第 11 回	健康科学講義: 「うつ」	「うつ」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 12 回	屋外スポーツ: サッカー、ソフトボール等 (試合形式)	授業内で指示された種目の審判法について確認しておく 試合の反省をし、課題点について練習をしておく	0.5 0.5
第 13 回	健康科学講義: 健康コラム「健康と水」実技「ストレッチ」	人体にとって重要な水について調べておく。またストレッチについて確認しておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第 14 回	まとめ	授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	0.5 0.5

35	健康・運動科学実習Ⅱ	FGE-MPH-212	選択 1単位 1年後期
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	 
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科1年全組 高野 淳司 本田 春彦 池田 晃一 黒澤 尚 金野 麻衣			
授業の達成目標			
生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的に複数種類のスポーツ種目を実践する。健康づくりのための基本的知識を理解し、生活の中に取り入れることを目的とする。			
ミニマムリクワイアメント			
複数種類のスポーツ種目を実践し、健康づくりのための基本的知識を理解することができる。			
授業の概要			
対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通じ、健康づくりのための基本的知識を習得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
特になし(必要な場合は適時授業時に資料を配付する。)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
実技に関しては、集団的内容はゲームでの成績、個人的内容は個々の実践能力を持って評価する。また講義等に関しては、授業内でミニテスト等を実施する。それらを総合的に評価することでこの授業の成績とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対し、フィードバックを行う。			
備考			

35	健康・運動科学実習Ⅱ	FGE-MPH-212	選択 1単位 1年後期
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences II			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	カイドダンス(授業概要・成績評価の説明)	授業内容等についてシラバスで確認する	0.5
第2回	室内スポーツ: バasketボール、バドミントン、バレーボール等(ルール、基礎について)	履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する 授業内で指示された種目のルール、基礎について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく	0.5 0.5 0.5
第3回	健康科学講義: 人体「腎臓」	「腎臓」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第4回	室内スポーツ: バasketボール、バドミントン、バレーボール等(応用技術、試しのゲーム)	授業内で指示された種目の試合進行方法について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく。	0.5 0.5
第5回	健康科学講義: 人体「脂肪と筋肉」	「脂肪」と「筋肉」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第6回	室内スポーツ: バasketボール、バドミントン、バレーボール等(試合形式)	授業内で指示された種目の審判法について確認しておく 試合の反省をし、課題点について練習をしておく	0.5 0.5
第7回	健康科学講義: 人体「骨」	「骨」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第8回	屋外スポーツ: フットサル、ソフトボール等(ルール、基礎について)	授業内で指示された種目のルール、基礎について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく	0.5 0.5
第9回	健康科学講義: 人体「腸」	「腸」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第10回	屋外スポーツ: フットサル、ソフトボール等(応用技術、試しのゲーム)	授業内で指示された種目の試合進行方法について確認しておく 技術の定着を図るため各自反復練習をしておく。	0.5 0.5
第11回	健康科学講義: 人体「脳」	「脳」について調べておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第12回	屋外スポーツ: フットサル、ソフトボール等(試合形式)	授業内で指示された種目の審判法について確認しておく 試合の反省をし、課題点について練習をしておく	0.5 0.5
第13回	健康科学講義: 健康コラム「運動と脳」実技「ストレッチ」	運動と脳の関係について調べておく。またストレッチについて確認しておく 授業で説明された内容について確認しておく	0.5 0.5
第14回	まとめレポート課題	授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	0.5 0.5

36	スポーツ科学実習	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
Practice of Sports Science			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 高野 淳司 本田 春彦 土井 豊 森田 清美			
授業の達成目標			
生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的として健康づくりに必要な知識を習得および複数種類のスポーツ種目を実践する。それぞれの実技種目の実践や健康科学講義の受講によって、運動やスポーツの効果を実感したり自らの健康意識を高めていく。			
ミニマムリクワイアメント			
実技種目の実践と健康科学講義を通して健康意識を高めることが出来る。			
授業の概要			
対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なトレーニングやスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通し、健康づくりのための基本的知識を習得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適時授業時に資料を配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
実技に関しては、集団的内容はゲームでの成績、個人的内容は個々の実践能力を持って評価する。また講義等に関しては、授業内でミニテスト等を実施する。それらを総合的に評価することでこの授業の成績とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

36	スポーツ科学実習	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
Practice of Sports Science			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス (授業内容と進め方の理解)	選択する種目等についてシラバスで確認する	0.5
第 2 回	屋内でのニューススポーツ種目：インディアカ、ミニテニス、ポッチャ、卓球バレー (基本技術の確認)	履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	0.5
第 3 回	健康科学講義：人体「生命誕生」	実施する種目の概要 (基本技術等)を確認をしておく	0.5
第 4 回	健康科学講義：人体「健康長寿」	技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	0.5
第 5 回	屋内でのニューススポーツ種目：インディアカ、ミニテニス、ポッチャ、卓球バレー (グループ練習とミニゲーム)	人体の構造・機能と生命誕生について調べておく	0.5
第 6 回	健康科学講義：人体「健康長寿」	実施する種目のルールについて確認をしておく	0.5
第 7 回	健康科学講義：遺伝子「DNAについて」	技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	0.5
第 8 回	健康科学講義：遺伝子「エピジェネティクスについて」	人体の構造・機能と健康長寿について調べておく	0.5
第 9 回	屋外でのニューススポーツ種目：キックベース、ティーボール、フライングディスク、ラクロス (基本技術の確認)	実施する種目の審判法について確認をしておく	0.5
第 10 回	健康科学講義：「IPS細胞」について	試合を通しての自己評価と振り返りを行う	0.5
第 11 回	健康科学講義：「疲労」について	エピソードについて調べておく	0.5
第 12 回	健康科学講義：「疲労」について	授業で説明された内容について確認する	0.5
第 13 回	実技：「HIT」	実施する種目の概要 (基本技術等)を確認をしておく	0.5
第 14 回	まとめとレポート課題	技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	0.5
		実施する種目の審判法について確認をしておく	0.5
		試合を通しての自己評価と振り返りを行う	0.5
		疲労の影響について調べておく	0.5
		HITについて調べておく	0.5
		授業で説明された内容について確認する	0.5
		授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく	0.5
		授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	0.5

37	スポーツ科学実習（ゴルフ）	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
	Practice of Sports Science		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1 人が全回担当)	教職科目（工業）	 
	○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 2 年全組 高野 淳司 本田 春彦			
授業の達成目標			
生涯スポーツや健康づくりの一つとしてゴルフを実践し、本種目の競技特性や楽しさ、コンペラウンド等の運営方法等を理解・体得する。また他者とのコミュニケーション力を養う。授業前半で基本的なゴルフスイング（ショット・アプローチ・パット）の基本技術を理解・習得し、それをもとに授業後半でラウンドするミニコースで実際に実践することが出来る様になることを目標とする。			
ミニマムリクワイアメント			
基本技術を理解・習得し、ミニコースで実際に実践することが出来る。			
授業の概要			
この集中コースは、夏期休業中に学外のゴルフ専用施設を利用して実施する。授業前半はゴルフ打球練習場でのスイングの基本技術の習得と応用、授業後半はミニゴルフ場でのショートコースの実践ラウンドを行い受講者の技術習得度を受講者自身で確認する。なおこの集中コースは、実習に要する経費の一部は受講生の自己負担となる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適時資料を配付する。また、視聴覚映像を使用する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
基礎実技、応用実技の達成度、コースラウンド結果及び課題レポートを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
実技結果、レポート内容については授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

37	スポーツ科学実習（ゴルフ）	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
	Practice of Sports Science		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス ゴルフの基礎理論：「用具の活用、スウィング動作、ボールヒッティング」についての説明	用具や基本動作について調べておく	0.5
第 2 回	打球場での学習と練習「アプローチ基礎」	アプローチ技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 3 回	打球場での学習と練習「アプローチ応用」	状況に応じたアプローチ技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 4 回	打球場での学習と練習「ショートアイアン基礎」	ショートアイアンのスウィング技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 5 回	打球場での学習と練習「ショートアイアン応用」	状況に応じたショートアイアン技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 6 回	打球場での学習と練習「ミドルアイアン基礎」	ミドルアイアンのスウィング技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 7 回	打球場での学習と練習「ミドルアイアン応用」	状況に応じたミドルアイアン技術のポイントについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 8 回	打球場での学習と練習「ドライバー、パター」	ドライバーのスウィングやパターの基本について調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 9 回	打球場での学習と練習「模擬ラウンド」	ラウンドを想定した練習における自身の課題について確認しておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 10 回	ショートコースでのマナー学習と練習（バンカー、グリーン周り）	バンカーやグリーン周りにおけるマナーについて調べておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 11 回	ショートコース（9 ホール、パー 27）を練習ラウンド	第 1 回～第 10 回の振り返りと、自身の課題を再確認しておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 12 回	打球場での学習と練習「ラウンド実践に向けての調整」	練習ラウンドを通じて発見した課題を再確認し、練習しておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 13 回	ショートコースローカルルール、マナー確認	「ローカルルール」やマナーについて再確認しておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5
第 14 回	ショートコース（9 ホール、パー 27）をラウンド実践	第 11 回～第 13 回の振り返りと、自身の課題を再確認しておく 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5 0.5

38	スポーツ科学実習（スキー）	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
Practice of Sports Science			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1 人が全回担当)		教職科目（工業）	 
○ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 2 年全組 本田 春彦 高野 淳司			
授業の達成目標			
スキーの基礎技術や応用技術を習得し、自分の技量に応じたスキースポーツの楽しみ方をみつける。スキーヤーとして必要な安全配慮やスキー場でのルールやマナーを身につける。			
ミニマムリクワイアメント			
スキー技術を身につけ、安全配慮を理解し、スキーを楽しむことが出来る。			
授業の概要			
この集中コースは前期開講科目であるが冬季スポーツであるため後期に実施される 3 泊 4 日の実技実習を経て 1 単位が認定される。実習は技能に応じた班別指導が行われ、班別集団演技等によって技能の向上が図られるだけでなく、人間交流も含めた共同生活を通じてルールやマナーも学び、総合学習の機会として意義深い。ただしこの集中コースは、実習に要する経費は学生の自己負担となる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
適時、資料を配付する参考書 SAJ 編 日本スキー教程 理論編 指導実技編検定編			
参考書等			
成績評価方法・基準			
学内・学外授業の全日程参加を必須条件とし、受講中の課題達成状況や役割遂行状況、および実習日誌（レポート）等について総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート内容については、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

38	スポーツ科学実習（スキー）	FGE-MPH-321	選択 1単位 2 年前期
Practice of Sports Science			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス（クラス分け） スキースポーツの特性とスキー技術論、スキーと安全、用具の知識とその活用について	用具や基本技術、安全上の留意点などについて調べておく	0.5
第 2 回	技能テスト 1「班分け」	履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	0.5
第 3 回	基礎技術「緩斜面での安全滑走」	技術のポイントについて調べておく	0.5
第 4 回	基礎技術「緩斜面での制動・回転技術」	授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5
第 5 回	応用技術「緩斜面での大回り」	滑走と止まり方の技術やポイントについて調べておく	0.5
第 6 回	応用技術「緩斜面での小回り」	授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5
第 7 回	応用技術「中斜面滑走」	ハラレルターンの大回りについて技術やポイントについて調べておく	0.5
第 8 回	技能テスト 2「到達レベルチェック、班再編」	ハラレルターンの小回りについて技術やポイントについて調べておく	0.5
第 9 回	発展技術「中斜面での大回り」	授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5
第 10 回	発展技術「中斜面での小回り」	第 3 回～第 7 回の授業の振り返りをしておく	0.5
第 11 回	発展技術「中・急斜面での大回り」	中斜面での大回りにおける技術やポイントについて調べておく	0.5
第 12 回	発展技術「中・急斜面での小回り」	授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5
第 13 回	応用実技練習「班別団体演技」	中斜面での小回りにおける技術やポイントについて調べておく	0.5
第 14 回	技能テスト 3「基礎実技、応用実技」まとめ	急斜面での大回りにおける技術やポイントについて調べておく	0.5
		授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	0.5
		自身にとって課題となる動作について確認しておく	0.5
		授業の振り返りのための技術のポイントについて確認しておく	0.5
		授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	0.5

39	キャリアデザインⅠ	FGE-CD-101	必修 1単位 1 年前期
	Career DesignⅠ		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○実務経験のある教員担当	
		○アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 玉村 太知 石井 きらら 曳田 英里奈			
授業の達成目標			
●キャリアデザイン力の養成 ・自分自身のキャリアをデザインすることの意義や必要性を理解し、自身の将来の展望を広い視野で考えることができる。 ・自身のこれまでの経験について、客観的に自己評価することができる。 ・自己評価の結果と将来の展望を踏まえて、短期的な目標やアクションプランを立てることができる。			
●ベーシックスキルの向上 ・チームで働くために必要な基本的コミュニケーションスキルを身に付けている。			
●共通学士力の理解 ・本学学士力を身に付けるための具体的な取り組み方法を理解しており、大学生活で実践する姿をイメージできる。			
ミニマムリクワイアメント			
アセスメントテスト (PROG) の結果を踏まえて、今年度の目標とアクションプランを作成することができる。			
授業の概要			
本授業は、授業達成目標の「キャリアデザイン力の養成」と「ベーシックスキルの向上」「共通学士力の理解」に向けて、キャリア観を踏まえた自己特性把握とグループ活動の経験の積み重ねを中心に行う。 ●本授業計画前半では、キャリアデザインの意味や本学における学びの目標 (学修成果・学士力) について理解するとともに、自身のこれまでの経験を時系列で整理し、自身の特性などについて自己評価・他者評価する演習を行い、自己理解を深める。また、コミュニケーションの経験獲得のためのコンテンツを用い、他者とコミュニケーションを取る経験の場を設ける。 ●授業計画後半では、社会との接点を意識し、企業の課題解決等を題材としたPBL(課題解決型学習)のグループ活動を実施する。PBLではグループ活動を通して現状を自己認識し、より「チームで働く力」を意識した目標を設定し他者との関わり・実践を通してビジネスコミュニケーションスキルの土台づくりを目指す。 最終的には、PROGテスト結果を踏まえた自身の特性や社会で求められる要素への理解を基に、大学在学中のアクションプランの設計を行う。			
実務経験を活かした教育について			
大学生のキャリア形成、就職活動に関する支援経験を活かし、キャリア教育コーディネーターとして一人ひとりが自らの働き方や生き方を主体的に捉え、社会人基礎力の向上と合わせ、納得感を持ちキャリアを形成するための仕組みを構築する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義時にプリントや冊子、講義資料を適宜配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
①「PROGテストを受検する」(50%) ②「PBL企画書／アクションプランシート／5つの共通学士力のチェックシート」計3点全ての課題提出 (50%) 以上の①②を総合的に評価し、合わせて60%以上に達した者に単位を認定する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

39	キャリアデザインⅠ	FGE-CD-101	必修 1単位 1 年前期
	Career DesignⅠ		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	(キャリア概論①) キャリアとは?・キャリアデザインⅠの目的・学修ポートフォリオの作成	自身のキャリアについて考えてみる	0.5
第2回	(社会人基礎力プログラム①) マイナビコンパスの受検・コミュニケーションワークショップ	求められる共通学士力を確認する	0.5
第3回	(自己理解①) アセスメントテスト (PROGテスト) の受検	コミュニケーションをとる上でのポイントを事前に調べる	0.5
第4回	(自己理解②) これまでの経験の振り返り・今後の目標設定	コミュニケーションをとる上でのポイントを振り返る	0.5
第5回	(自己理解③) 目標達成に向けたアクションプランの作成	自身のこれまでの経験を振り返る	0.5
第6回	(社会人基礎力プログラム②) PBL: 導入 (PBLテーマ解説・進め方確認・ワーク)	設問に対しての自身の経験を振り返る	0.5
第7回	(社会人基礎力プログラム③) PBL: アイデアの出し方・グループワーク	第3回授業を振り返り、自身の経験の整理・深堀を行う	0.5
第8回	(社会人基礎力プログラム④) PBL: 企画書作成のポイント・グループワーク	自身の経験を言語化できるようにする	0.5
第9回	(社会人基礎力プログラム⑤) PBL: プレゼンテーションのポイント・グループワーク	自身の経験を基に具体的なアクションプランを考える	0.5
第10回	(社会人基礎力プログラム⑥) PBL: プレゼンテーション・優秀チーム選出	アクションプランの他社との共有をふまえ、自身のアクションプランをブラッシュアップする	0.5
第11回	(社会人基礎力プログラム⑦) コミュニケーショントレーニング	テーマ提供企業について調べる	0.5
第12回	(キャリア概論②) 進路選択の3要素・自分と社会との繋がりと進路	テーマ分析の手法について、振り返る	0.5
第13回	(社会人基礎力プログラム⑧) 優秀チームのプレゼンテーション・PBLの振り返り	グループ内で出た課題について整理する	0.5
第14回	(キャリア概論③) 全体の振り返り・卒業までの目標とアクションプランの確認・修正	アイディア出しのポイントについて整理する	0.5
		第7回で出たアイデアの妥当性を検証する	0.5
		企画書作成のポイントを整理する	0.5
		第8回で作成した企画書を見直す	0.5
		プレゼンテーションのポイントを整理する	0.5
		発表の準備を行う	0.5
		他グループの発表を聞いて自身のプレゼンテーションを振り返る	0.5
		これまでのPBLを通して得たコミュニケーションのポイントを整理する	0.5
		自身のコミュニケーションの変化を知り、今後コミュニケーションをとる中で気をつけるべきポイントを整理する	0.5
		大学院への進学における考え方をまとめる	0.5
		自身のアクションプランについて整理する	0.5
		発表の準備を行う	0.5
		他グループの発表を聞いて自身のプレゼンテーションを振り返る	0.5
		授業全体で印象に残っている授業をピックアップ	0.5
		今後のアクションプランの見直しと実践	0.5

40	キャリアデザインⅡ		FGE-CD-302	必修 1単位 2 年後期
	Career Design II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)		
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
○	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
		○ 実務経験のある教員担当		
		○ アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
全組 玉村 太知 石井 きらら 河野 佑登 鳥村 理人				
授業の達成目標				
●キャリアデザイン力の養成 ・1年間の大学生活を踏まえ、より具体的なイメージをもって、自分自身のキャリアをデザインすることができる ・自身の現状と将来の展望について、客観的に自己評価することができる。 ・自己評価の結果を踏まえて、目標やアクションプランの修正案または具体的な改善策を考えることができる。 ●ベーシックスキルの向上 ・チームの活動および成果に対して、主体的に貢献することができる。 ・与えられた課題の本質的解決策を考え抜くことができる。 ・相手に対して効果的に伝わるプレゼンテーションを行うことができる。 ●共通学士力の理解 ・学修成果可視化システムを活用して、自分自身の学士力到達度（現在のレベル）を把握することができる。				
ミニマムリクワイメント				
1 年次の取組みの自己評価と客観的な能力測定（適職診断MATCHplus）の結果を踏まえて、キャリア形成をより意識した「卒業までの目標」を立てること、さらにその目標に向けての「アクションプラン」の作成、修正を行うことができる。				
授業の概要				
本授業は、授業達成目標の「キャリアデザイン力の養成」と「ベーシックスキルの向上」「共通学士力の理解」に向けて、キャリアデザインⅠでの学習を土台とし、キャリア観を踏まえた自己特性把握とグループ活動を通じた体系的なスキル理解・習得を行う。				
●授業計画前半では、自身のキャリアを実現していくための自己分析・仕事研究を含めた概論に加え、PBL（課題解決型学習）サポートプログラムによるグループ活動でのコミュニケーションから、思考法やアイデアの出し方などのスキルアップのための手法理解に取り組む。				
●授業計画後半では、授業前半で実施したグループ活動でのコミュニケーションから得た思考法やアイデアの出し方をふまえ、「情報収集・分析力」「論理的思考力」「課題発見・解決力」向上のため、企業課題を解決するPBLに取り組む。状況に応じて課外でのグループ活動が必要となる場合もある為、自身のグループの状況や期日までの期間を鑑み判断し取り組む。				
最終的には、「社会（想定されるキャリア）で求められる力」と「現状の自身の力（自己認識）」を把握した上で、卒業時までの目標設定・行動計画の立案を行う。				
実務経験を活かした教育について				
大学生のキャリア形成、就職活動に関する支援経験を活かし、キャリア教育コーディネーターとして一人ひとりが自らの働き方や生き方を主体的に捉え、社会人基礎力の向上と合わせ、納得感を持ちキャリアを形成するための仕組みを構築する。				
メディア授業の実施形態				
教科書等				
講義時にプリントや冊子、講義資料を適宜配布する。				
参考書等				
成績評価方法・基準				
①「適職診断MATCHplusを受検する・結果のフィードバックを受ける」(50%) ②「IPBL企画書／アクションプランシート」計2点全ての課題提出(50%) 以上の①②を総合的に評価し、合わせて60%以上に達した者に単位を認定する。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。				
備考				

40	キャリアデザインⅡ	FGE-CD-302	必修 1単位 2 年後期
	Career Design II		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 1 回	（キャリア概論①）キャリアデザインⅠの振り返り・キャリアデザインⅡの目的・学修ポートフォリオの作成	キャリアデザインⅠを振り返る	0.5
		求められる共通学士力を再確認する	0.5
第 2 回	（自己理解①）能力測定と結果の活用・アクションプランの作成	自身のこれまでの経験を振り返る	0.5
		設問に対しての自身の経験を振り返る	0.5
第 3 回	（進路研究①）業界／職種／企業研究の基礎とインターンシップの理解	仕事について調べてみる	0.5
		インターンシップ情報をふまえて次のアクションを起こす準備をする	0.5
第 4 回	（社会人基礎力プログラム①）アイデア発想トレーニング	グループ内へ発信するアイディアを考える	0.5
		アイディアの出し方を整理し、実践できるように理解する	0.5
第 5 回	（社会人基礎力プログラム②）PBL：導入（PBLテーマ解説・進め方確認・ワーク）	テーマ提供企業について調べる	0.5
		テーマ分析の手法について、振り返る	0.5
第 6 回	（社会人基礎力プログラム③）PBL：課題発見トレーニング・グループワーク	課題解決に必要なスキルについて考える	0.5
		自身に足りない課題解決に必要なスキルを整理する	0.5
第 7 回	（社会人基礎力プログラム④）PBL：企画書作成のポイント・グループワーク	グループ内で出た課題について整理する	0.5
		企画書に纏めた内容を整理する	0.5
第 8 回	（社会人基礎力プログラム⑤）PBL：プレゼンテーションのポイント・グループワーク	グループ内で出た課題について整理する	0.5
		プレゼンテーションのポイントを整理する	0.5
第 9 回	（キャリア概論②）キャリアに関わる法律やルール、税と社会保障等の理解	ワークルールや税金等について調べる	0.5
		ワークルールや税金等について整理し、まとめる	0.5
第 10 回	（社会人基礎力プログラム⑥）PBL：優秀チームのプレゼンテーション・PBLの振り返り	発表の準備を行う	0.5
		他グループの発表を聞いて自身のプレゼンテーションを振り返る	0.5
第 11 回	（キャリア概論③）「はたらく」ことを考える	はたらくことに対して考える	0.5
		価値観の整理をする	0.5
第 12 回	（進路研究②）卒業後の進路の選択肢を考える（就職・大学院進学・その他）	大学院への進学における考え方をまとめる	0.5
		自身のアクションプランについて整理する	0.5
第 13 回	（自己理解②・進路研究③）自己分析と企業研究の実践	第2回の内容をふまえ、自身の経験の振り返りを行う	0.5
		自身のアクションプランについて整理する	0.5
第 14 回	（キャリア概論④）全体の振り返り・卒業までの目標とアクションプランの確認・修正	全体授業で印象に残っている授業をピックアップ	0.5
		今後のアクションプランの見直しと実践	0.5

41	キャリアデザインⅢ	FGE-CD-503	必修 1単位 3 年前期
	Career Design III		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全組 高橋 秀太郎			
授業の達成目標			
●キャリアデザイン力の養成 ・これまでの大学生活を振り返り、自分自身の特性や社会の状況などを踏まえて、卒業後の進路を意識した現実的なキャリアをデザインすることができる。 ・目指すキャリアの実現のために必要なことを整理し、中長期の目標と計画を立て、在学中に実行に移すことができる。 ●ベシックススキルの向上 ・進路選択の活動を円滑に進めるために必要な基礎スキルを身に付けている。 ・業界研究や企業研究等、進路選択に関する研究を自分の力で行うことができる。 ●共通学士力の理解 ・より高いレベルの学士力を身に付けるために必要な方法を考え、実行に移すことができる。			
ミニマムリクワイアメント			
卒業後の進路を明確にし、その実現に向けた具体的なアクションプランを作成することができる。 履歴書の作成と企業研究を行うことができる。			
授業の概要			
本授業は、授業達成目標の「キャリアデザイン力養成」と「ベシックススキルの向上」「共通学士力」に向けて、キャリアデザインⅡに引き続き、キャリア観を踏まえた自己特性および社会理解を中心に、就職活動の基礎能力向上を目指し授業を行う。 ●授業計画前半では、キャリア・就職活動でも基礎となる自己理解、仕事理解を中心にインプットをメインとした授業を展開していく。 ●授業計画後半では、インプットした情報をよりリアルな企業情報をもとに、企業レポート、履歴書をベースとしたアウトプットヘシフィ、キャリアデザインでの学びを改めて整理しながらアウトプットスキルを高めていく。			
最終的には、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡの学びを整理し、自身の進路および企業選択に必要なスキルを高め納得のいくリアップに繋げていく。			
実務経験を活かした教育について			
キャリア形成の支援経験を活かし、一人ひとりが自らの働き方や生き方を主体的に捉え、社会人基礎力の向上と合わせ、納得感を持ちキャリアを形成するための仕組みを構築する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義時にプリントや冊子、講義資料を適宜配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
①「適職診断MATCHplusを受検する・結果のフィードバックを受ける」(50%) ②「企業団体レポート／履歴書／アクションプランシート」計3点全ての課題提出(50%) 以上の①②を総合的に評価し、合わせて60%以上に達した者に単位を認定する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

41	キャリアデザインⅢ	FGE-CD-503	必修 1単位 3 年前期
	Career Design III		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	(キャリア概論①) キャリアデザインⅢの目的・就職活動の基本・学修ポートフォリオの作成	キャリアデザインⅠ、Ⅱの学びを整理する 自身のキャリアについて再考する	0.5 0.5
第2回	(就職活動基礎力プログラム①) インターンシップの傾向と対策	インターンシップ参加の目的を整理する 夏のインターンシップ参加に向けて候補企業をリストアップする	0.5 0.5
第3回	(進路研究①) インターンシップの活用と留意点・大学院進学の実際	大学院への進学における考え方をまとめる 学内インターンシップ応募方法について整理する	0.5 0.5
第4回	(自己理解①) 能力測定と結果の活用	キャリアデザインⅠ、Ⅱで使用したワークシートを整理する 適職診断MATCHplusの結果を基に自己理解を深める	0.5 0.5
第5回	(自己理解②) 自己への理解を深める(自己分析の重要性と実践)	適職診断MATCHplus受検結果を振り返る 自己理解を基に自身のスキルや経験を整理する	0.5 0.5
第6回	(進路研究②) 仕事への理解を深める(企業研究の重要性と実践)	自身の興味のある業界、企業について纏める 仕事研究を基にインターンシップ参加企業を幅広く探す	0.5 0.5
第7回	(就職活動基礎力プログラム②) 第一印象UPのためのマナー対策	自身の把握しているマナーの知識を把握する マナー対策で学んだ内容を日常的に使用してみる	0.5 0.5
第8回	(就職活動基礎力プログラム③) 人事担当者による選考面接のポイント	選考のフローを確認する 面接のポイントを振り返り選考対策に繋げる	0.5 0.5
第9回	(進路研究③) 企業研究(人事担当者によるパネルディスカッション)	登壇企業について調べ、質問を考える 登壇企業の特徴について纏める	0.5 0.5
第10回	(進路研究④) 企業研究(人事担当者によるパネルディスカッション)	登壇企業について調べ、質問を考える 登壇企業の特徴について纏める	0.5 0.5
第11回	(就職活動基礎力プログラム④) 履歴書作成(基本とポイント)	大学指定履歴書を確認しておく 第13回の講義に向けて履歴書の作成を進める	0.5 0.5
第12回	(就職活動基礎力プログラム⑤) 面接対策(基本とポイント)	自身の履歴書の内容を発言する際のポイントを整理する 第13回の講義に向けて今までの学びを整理する	0.5 0.5
第13回	(就職活動基礎力プログラム⑥) アウトプットトレーニング	自己PR、ガクチカ、学業について纏める アウトプットトレーニングを経て良かった点、反省点を整理する	0.5 0.5
第14回	(キャリア概論②) 全体の振り返り・卒業までの目標とアクションプランの確認・修正	全体授業で印象に残っている授業をピックアップ 今後のアクションプランの見直しと実践	0.5 0.5

42	人工知能総論		FGE-AI-121	必修 1単位 1 年前期	
	Artificial Intelligence Literacy				
授業形態			該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 	
	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)		
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)		
	クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目		
			○ 実務経験のある教員担当		
			アクティブラーニング		
			メディア授業		
クラス・担当教員					
全学科 1 年全組 木戸 博 室山 真徳 井上 雅史 八巻 俊輔 船木 尚己 菅原 景一 多田 美香 竹内 透 青山 純 長崎 智宏 畠山 雄 豪 二瀬 由理					
授業の達成目標					
人工知能 (AI, Artificial Intelligence) やデータサイエンス (データから価値を引き出す科学) とはどのようなものか、AI を取り巻く幅広い研究分野と応用について学び、AI が生む新たな価値を理解し、今後のデジタル社会において、AI やデータサイエンスを日常の生 ことができる基礎的素養を主体的に身に付けることが目標である。					
ミニマムリクワイアメント					
人工知能やデータサイエンスとはどのようなものかを理解できるようになる。					
授業の概要					
AI・データサイエンスの概要、AI の日常生活への適用事例や、各研究分野への適用事例を知ることにより、AI・データサイエンスとは どのようなものを学ぶ。統計解析および機械学習といった AI の仕組みや作られ方に関連する話題を、科学技術計算ソフトウェアの利用 例を通じて学ぶ。各専門分野における研究開発や実務経験を活かして、問題解決・対応力を養成し、AI を利用して何ができるかを学ぶ。					
実務経験を活かした教育について					
民間企業において研究開発に従事した実績を踏まえ、その経験談から実務への対応力を学ぶ。省庁などにおいてデータ解析業務に従事 した実績を踏まえ、その経験談から実務への対応力を学ぶ。					
メディア授業の実施形態					
オンデマンド					
教科書等					
授業で使用する資料は学習支援システム (LMS) 等で配布する。					
参考書等					
ディープラーニング6検定 シネラリスト公式テキスト 第3版 一般社団法人日本ディープラーニング協会 監修 翔泳社 2024 教養としてのデータサイエンス 改訂第2版 北川他編著・内田他著 講談社 2024					
成績評価方法・基準					
学習支援システム (LMS) で実施される確認テストにおいて、規定回数以上で合格点をとること。					
課題や試験等に対するフィードバック方法					
確認テストに出題する内容は授業の中で説明している。不明なときは資料や動画を見直すこと。					
備考					

42	人工知能総論		FGE-AI-121	必修 1単位 1 年前期
	Artificial Intelligence Literacy			
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第 1 回	社会におけるデータ・人工知能利活用 担当: 木戸博	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 2 回	電気電子・情報通信分野でのデータ・AI利活用 担当: 室山真徳, 井上雅史	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 3 回	建築・土木分野でのデータ・AI利活用 担当: 船木尚己, 菅原景一	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 4 回	環境応用化学分野・経営コミュニケーション分野でのデータ・AI利活用	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 5 回	デザイン分野でのデータ・AI 利活用 担当: 長崎智宏, 畠山雄豪	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 6 回	数理統計の基礎 担当: 青山純, 竹内透	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 7 回	データの可視化 担当: 青山純, 竹内透	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 8 回	データ加工の基礎 担当: 青山純, 竹内透	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 9 回	データ・AI利活用における留意事項 担当: 田中明美	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 10 回	MATLABによる統計解析 (記述統計) 担当: 八巻俊輔	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習する。	2 2	
第 11 回	MATLABによる統計解析 (データ近似) 担当: 八巻俊輔	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 12 回	MATLABによる機械学習 (ワークフロー) 担当: 八巻俊輔	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習する。	2 2	
第 13 回	MATLABによる機械学習 (分類モデル) 担当: 八巻俊輔	LMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。 資料等を活用して各授業内容を復習し、LMSの確認テストを受ける。	2 2	
第 14 回	まとめと総復習 担当: 木戸博	これまで学んだ部分を予めまとめておく。 資料等を活用して各授業内容を総復習する。	2 2	

43	人工知能入門		FGE-AI-222	選択 1単位 1年後期
	Introduction to Artificial Intelligence			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
全学科 1 年全組 中山 英久 八巻 俊輔				
授業の達成目標				
人工知能 (AI, Artificial Intelligence) とはどのようなものか、AI 技術や AI に関する幅広い知識について学び、人工知能のジェネラリストとしての素養を高める。そこで、以下の達成目標を定める。 (1) 各回で設定された確認テストに合格する (2) JDLA G検定に合格する (3) DS検定リテラシーレベルに合格する				
ミニマムリクワイアメント				
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) とする。				
授業の概要				
AI 発展の経緯や、機械学習およびディープラーニングの概要、手法に関する知識を学ぶ。JDLA 主催の G 検定ジェネラリスト試験の出題範囲に沿った問題を通じ、問題に関連する AI の知識について学ぶ。将来的に AI 関連事業に携わる場合、AI に関する事柄で話が出来て、円滑に事業が進められるよう、多くの AI 技術を知識として蓄える。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
オンデマンド型				
教科書等				
徹底攻略 ディープラーニング G 検定 ジェネラリスト問題集 第3版 (樹スキルアップNeXt(小縣/斉藤/森田/田澤/小宮/山田/安藤) 著、杉山 将 監修、(株)ソキウス・ジャパン 編 インプレス 2024				
参考書等				
これ1冊で最短合格 ディープラーニングG検定ジェネラリスト要点整理テキスト&問題集 第2版 浅川伸一 監、遠藤太一郎 技術校閲、山下長義 著、他5名 秀和システム 2022 深層学習教科書 ディープラーニング G検定 (ジェネラリスト) 公式テキスト 第3版 一般社団法人日本ディープラーニング協会 監修、山/猪狩/今井/黒龍/瀬谷/徳田/中澤/藤本/古川/松尾/松嶋 著 翔泳社 2024				
成績評価方法・基準				
学習支援システム (LMS) で実施される確認テスト6回について、すべて合格点をとること。				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
確認テストに出題する内容は授業の中で説明している。不明なときは、資料や動画を見直すこと。				
備考				

43	人工知能入門		FGE-AI-222	選択 1単位 1 年後期
	Introduction to Artificial Intelligence			
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）		目安時間(時)
第 1 回	人工知能とは／人工知能をめぐる動向	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 2 回	機械学習の概要	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける		2
		LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 3 回	ディープラーニングの概要／ディープラーニングの要素技術	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける		2
		LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 4 回	ディープラーニングの応用例	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける		2
		LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 5 回	AI の社会実装に向けて／AI に必要な数理・統計知識	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける		2
		LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 6 回	AI に関する法律と契約／AI 倫理・AI ガバナンス	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける		2
		LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。		2
第 7 回	まとめと総復習	これまで学んだ部分を予めまとめておく。		2
		資料等を活用して各授業内容を総復習する。		2
第 8 回				
第 9 回				
第 10 回				
第 11 回				
第 12 回				
第 13 回				
第 14 回				

44	人工知能基礎	FGE-AI-523	選択 2単位 3 年前期
Basic Exercises of Artificial Intelligence Programming			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科 3 年全組 木戸 博			
授業の達成目標			
人工知能 (AI : Artificial Intelligence) を構築する上で不可欠なプログラミングの基礎を理解し、基本的なAIプログラムを作成できるようになることを目指す。			
ミニマムリクワイアメント			
基本的なAIプログラムを理解できるようになる。			
授業の概要			
AI構築に有用なプログラミング言語MATLABを用いて、機械学習やディープラーニング（深層学習）のプログラム作成の基礎を解説する。さらに、AIプログラムの作成やMATLABアプリを用いた分析などの実践を通してAIの理解を深める。なお、プログラミング初心者への受講を想定して、限られた時間内で可能な限り基本的な事項から説明する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、省庁においてニューラルネットワークを含む統計的手法を用いたデータ解析業務に従事した経験を有し、実践的な業務に対応できるスキルを養成する。			
メディア授業の実施形態			
オンデマンド			
教科書等			
授業で使用する資料はLMSで配布する。 ※ MATLABの入手先：「情報サービスセンターMathWorks包括契約 (MATLAB)」 https://www.infcm.tohtech.ac.jp/matlab/			
参考書等			
参考URL：「MathWorks社」 https://jp.mathworks.com/ ディープラーニング6検定 ジェネラリスト公式テキスト 第3版 一般社団法人日本ディープラーニング協会監修 翔泳社 2024			
成績評価方法・基準			
提出必須の課題をすべて提出した上で、学修支援システム (LMS) で実施される確認テストの成績に基づき評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストに出題する内容は授業の中で説明しているので、不明なときは資料や動画を見直すこと。			
備考			

44	人工知能基礎	FGE-AI-523	選択 2単位 3 年前期
Basic Exercises of Artificial Intelligence Programming			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	講義説明, MATLABの概要	学修支援システム (LMS) で配付される資料を読み、MATLABに関連する項目について目を通しておくこと。 自分のPCにMATLABをインストールして動作を確認する。	2
第 2 回	プログラミングの基礎	LMSで配付される資料を読み、プログラミングで重要な役割をする変数について理解を深めておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を確認する。	2
第 3 回	アルゴリズムとデータ構造	LMSで配付される資料を読み、アルゴリズムについて確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 4 回	データの可視化	LMSで配付される資料を読み、MATLABでのグラフ作成について確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 5 回	分析設計	LMSで配付される資料を読み、分析の流れについて理解を深めておくこと。 出題された提出必須の課題に取り組む。	2
第 6 回	記述統計	LMSで配付される資料を読み、中央値や分散などの代表値について確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 7 回	多変量解析	LMSで配付される資料を読み、多変量解析の種類を確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 8 回	機械学習の概要	「人工知能総論」「人工知能入門」で学んだ内容を確認しておく。 資料等を活用して授業内容の理解を深める。	2
第 9 回	教師あり機械学習のプログラム	LMSで配付される資料を読み、MATLABでの教師あり機械学習プログラムについて確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 10 回	教師なし機械学習のプログラム	LMSで配付される資料を読み、MATLABでの教師なし機械学習プログラムについて確認しておくこと。 出題された提出必須の課題に取り組む。	2
第 11 回	深層学習の概説	「人工知能総論」「人工知能入門」で学んだ内容を確認しておく。 資料等を活用して各自授業内容の理解を深める。	2
第 12 回	ニューラルネットプログラムの基礎	LMSで配付される資料を読み、MATLABでのニューラルネットプログラムについて確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 13 回	深層学習のプログラム	LMSで配付される資料を読み、学習済みネットワークについて確認しておくこと。 サンプルプログラムを通して理解を深める。	2
第 14 回	AIの構築と運用 担当：ゲストスピーカー	資料を事前に読んでおく。 この授業で学んだ事項についてまとめる。	2

45	人工知能応用	FGE-AI-624	選択 2単位 3年後期
Application of Artificial Intelligence			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科3年全組 中山 英久			
授業の達成目標			
人工知能 (Artificial Intelligence:AI) を支える技術である機械学習に必要なアルゴリズム、およびユーザーインターフェイスに関するプログラミングを理解するため、AIの構築と運用に関する具体的な課題として、“AIじゃんけんシステム”の構築に取り組む。そこを定める。 (1) カメラデバイスからの画像情報を利用した“AIじゃんけんシステム”を構築する (2) “AIじゃんけんシステム”の改良を検討する (3) “AIじゃんけんシステム”を理解し、AIシステムの構築と運用ができるようになる			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。			
授業の概要			
小型コンピュータ Raspberry Pi を利用したシステムを想定し、世界中のAIエンジニアが用いているプログラミング言語 Python を用いて、ニューラルネットワークやディープラーニング（深層学習）のプログラムを作成する。データの预处理アルゴリズムやGUI利用プロモデルの活用について、実践的なプログラミングを通してコーディングのデザインパターンを学習し、“AIじゃんけんシステム”の構築型学習により、AIの構築と運用に対する理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
対面授業6回とオンデマンド型メディア授業8回			
教科書等			
カラー図解 Raspberry Pi ではじめる機械学習 基礎からディープラーニングまで 金丸隆志 著 講談社 2018			
参考書等			
高校数学からではじめるディープラーニング 初歩からわかる人工知能が働くしくみ 金丸隆志 著 講談社 2020			
成績評価方法・基準			
演習課題の提出結果に基づき評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は期限までに提出することを前提とし、LMS 等でフィードバックする。			
備考			

45	人工知能応用	FGE-AI-624	選択 2単位 3年後期
Application of Artificial Intelligence			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	PythonでAIシステムを構築するための準備	教科書の第1章～第3章を読んで予習しておく。 PythonでAIシステムを構築するための準備について復習する。	2
第2回	ニューラルネットワークを用いた手書き数字の分類 (1) 数字データの性質と多層パーセプトロン	教科書の第6章6.1～6.6を読んで予習しておく。 数字データの性質と多層パーセプトロンについて不確実な部分を復習する。	2
第3回	ニューラルネットワークを用いた手書き数字の分類 (2) GUIアプリケーション	教科書の第6章6.7～6.8を読んで予習しておく。 GUIアプリケーションについて不確実な部分を復習する。	2
第4回	ニューラルネットワークを用いた手書き数字の分類 (3) 演習	手書き数字の分類 (ニューラルネットワーク版) の演習を行う。 理解の不確実な部分について、積み残さないようにする。	2
第5回	ディープラーニングを用いた手書き数字の分類 (1) 深層学習モデルの利用法	教科書の第10章10.1～10.5を読んで予習しておく。 深層学習ライブラリの利用法について不確実な部分を復習する。	2
第6回	ディープラーニングを用いた手書き数字の分類 (2) 深層学習モデルの実装	教科書の第10章10.6を読んで予習しておく。 深層学習ライブラリの実装について不確実な部分を復習する。	2
第7回	ディープラーニングを用いた手書き数字の分類 (3) 演習	手書き数字の分類 (ディープラーニング版) の演習を行う。 理解の不確実な部分について、積み残さないようにする。	2
第8回	AIじゃんけんシステムの構成	教科書の第7章を読んで予習しておく。 AIじゃんけんシステムを構築する上で、その構成について不確実な部分を復習する。	2
第9回	AIじゃんけんシステムの実装	教科書の第8章を読んで予習しておく。 AIじゃんけんシステムの実装について不確実な部分を復習する。	2
第10回	AIじゃんけんシステム (ニューラルネットワーク版) の完成	教科書の第9章を読んで予習しておく。 AIじゃんけんシステムの実装について不確実な部分を復習する。	2
第11回	AIじゃんけんシステム (ディープラーニング版) の完成	教科書の第10章10.7を読んで予習しておく。 AIじゃんけんシステムの実装について不確実な部分を復習する。	2
第12回	AIじゃんけんシステムの改良	AIじゃんけんシステムを運用する上で、改良の可能性について検討する。 改良項目についてまとめる。	2
第13回	AIじゃんけんシステムの発展	AIじゃんけんシステムの改良項目の実装を行う。 実装結果についてまとめる。	2
第14回	まとめと総復習	これまで学んだ事項を予めまとめておく。 学んだ事項について総復習する。	2

46	グリーンテクノロジー Green Technology	FGE-GT-231	必修 1単位 1年後期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		○ メディア授業	
クラス・担当教員			
全学部1年生 加藤 善大 柴田 憲治 田河 育也 下位 法弘 松田 勝敬 佐藤 篤 渡邊 浩文 許 雷 大石 洋之 菊田 貴恒 菊池 輝 北條 俊昌 内田 美穂 丸尾 容子 佐野 哲也 野澤 壽一 梅田 弘樹 栗原 広佑 大場 真 小祝 慶紀 川島 和浩			
授業の達成目標			
カーボンニュートラルの実現にはどうすべきか?東北工業大学で何をどのように学ぶべきか?など、3学部8学科の教員が全ての学生に、成長が期待される「グリーンテクノロジー」について講義する。学生それぞれの専門の学びとの連続や連携について視野を深め拡げ			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標とする。			
授業の概要			
国のグリーン成長戦略に向けて成長が期待される産業分野に分け、その分野の問題点を述べたのち、世界および日本のフレッシュな省エネ、省資源およびカーボンニュートラルへの取り組みを概説する。さらに、その分野で本学が関わっている研究を紹介する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
オンデマンド			
教科書等			
授業で使用する資料は学習支援システム (LMS) 等で配布する。 グリーンテクノロジー グリーンテクノロジー編集委員会 共立出版 2025			
参考書等			
成績評価方法・基準			
学習支援システム (LMS) で実施される確認テストにおいて、規定回数以上で合格点をとること。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
確認テストに出題する内容は授業の中で説明している。不明なときは資料や動画を見直すこと。			
備考			

46	グリーンテクノロジー Green Technology	FGE-GT-231	必修 1単位 1年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	講義の概要 洋上風力産業	教科書の第1章を事前に閲覧して予習する。	2
第2回	自動車・蓄電池産業	教科書等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第3回	半導体・情報通信産業	教科書の第2章を事前に閲覧して予習する。	2
第4回	住宅・建築物産業	教科書等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第5回	資源循環産業	教科書の第3章を事前に閲覧して予習する。	2
第6回	カーボンリサイクル・水素産業	教科書等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第7回	食料・農林水産業	教科書の第4章を事前に閲覧して予習する。	2
第8回	ライフスタイル産業	教科書の第5章およびLMSに掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第9回		教科書および資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第10回		教科書の第6章を事前に閲覧して予習する。	2
第11回		教科書等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第12回		教科書の第8章を事前に閲覧して予習する。	2
第13回		教科書等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第14回			

47	サステナビリティ入門		FGE-GT-332	選択 2単位 2 年前期
	Introduction to Sustainability Science			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み	
	単独(1 人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○	複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
		実務経験のある教員担当		
		アクティブラーニング		
		メディア授業		
クラス・担当教員				
2 年全組 佐野 哲也 山田 一裕 小祝 慶紀 川島 和浩				
授業の達成目標				
環境問題に取り組んでいく上で必要とされる基礎的な知識、考え方を知る。特に「持続可能な開発」の理念とそれを実践に変えるための「持続可能な開発目標」(SDGs)の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけることで、目標群の相互連関を理解・意識しながら統合的に考え、目標の達成に向け取り組める人材になる。				
ミニマムリクワイアメント				
「持続可能な開発」の理念とそれを実践に変えるための「持続可能な開発目標」(SDGs)の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけ、目標群の相互連関を理解できるようになる。				
授業の概要				
前半は、生態学・システム科学の思想に触れながら、相互連関、相乗効果(シナジー)、トレードオフ、適応、ニッチ、共生、多様性、レジリエンス、リダンダンシーなどSDGs時代のキーワードといえる項目について解説する。後半は、サステナビリティをめぐる世界的な動向(歴史)に触れながら、サステナビリティというものが環境に加え、社会(人)、経済を含めた3つの観点から考えられるようになっていった経緯を学ぶ。				
実務経験を活かした教育について				
メディア授業の実施形態				
オンデマンド				
教科書等				
適宜資料を掲示する				
参考書等				
EC0 検定公式テキスト 東京商工会議所 日本能率協会 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 環境省 環境省 世界はシステムで動く ― いま起きていることの本質をつかむ ドネラ・H・メドウズ 英治出版				
成績評価方法・基準				
確認テストおよび授業中に課すレポート課題の合計得点が60点以上で合格とする				
課題や試験等に対するフィードバック方法				
課題については評価後、よくある誤りや寄せられた見解についてコメントする。Webclassにチャット欄を設け適宜質問を受け付ける。				
備考				

47	サステナビリティ入門	FGE-GT-332	選択 2単位 2 年前期
Introduction to Sustainability Science			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス・SDGsにむけたISOの取組 (担当: 山田, 佐野)	SDGsにむけたISOの取組について予習する。	2
第 2 回	エコロジーについて (担当: 佐野)	SDGsにむけたISOの取組について復習する。	2
第 3 回	エコシステムとシステム概念 (担当: 佐野)	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第 4 回	生態系における資源・エネルギーの流れ (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第 5 回	資源循環による地域社会の持続性 (担当: 山田)	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第 6 回	資源エネルギーと人口問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第 7 回	システムの持続可能性と多様性 (1) 多様性が生じるしくみ (担当: 佐野)	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第 8 回	システムの持続可能性と多様性 (2) 多様性と持続可能性について (担当: 佐野哲也)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第 9 回	システムの視点からみたSDGs (担当: 佐野)	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第 10 回	自然資本の経済と制度 (1) (担当: 小祝)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
第 11 回	自然資本の経済と制度 (2) (担当: 小祝)	希少な資源である自然資本により経済が成長することと環境問題との関連について予習する。	2
第 12 回	企業の環境への取り組み (1) (担当: 川島) 環境保全に係る企業の社会的責任(CSR)活動の進展を	希少な資源である自然資本により経済が成長することと環境問題との関連について復習する。	2
第 13 回	企業の環境への取り組み (2) (担当: 川島) 環境問題を解決するツールとしての企業の環境情報の開示	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第 14 回	大学・学生による環境マネジメント (担当: 山田)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。	2
		大学・学生による環境マネジメントについて予習する。	2
		大学・学生による環境マネジメントについて復習する。	2

48	地球環境と諸問題	FGE-GT-433	選択 2単位 2 年後期
	Global Environmental Issues		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
☐ 単独(1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	   
☐ 複数(1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		☐ メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 佐野 哲也 山田 一裕			
授業の達成目標			
地球環境問題を理解する上で必要な、自然科学的・社会的背景を知り、国際社会の一員として解決に向けた取り組みに貢献する意識を持つようにする。地球全体または広範な部分に影響をもたらす地球環境問題を取り上げ、種々の問題が生じている背景と解決にむけた取り組みについて学ぶ。			
ミニマムリクワイアメント			
地球環境問題が起こっている自然科学的・社会的背景を理解することができる。			
授業の概要			
環境問題のうち、地球全体または広範な部分に影響をもたらす地球環境問題を取り上げ、種々の問題が生じている背景と解決にむけた取り組みについて学ぶ。まず、基礎となる自然科学的な背景として地球の成り立ち(大気循環、水循環、バイオーム)を学ぶ、次に各バイオームでおこっている環境問題(森林破壊、砂漠化、森林火災、海洋汚染、大気汚染、地球温暖化)の特徴とそれを引き起こしている社会的側背景を学び、解決に向けた国際的な取り組みについて知る。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
オンデマンド			
教科書等			
参考書等			
EC0 検定公式テキスト 東京商工会議所 日本能率協会 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 環境省 環境省 カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第5巻 生態学 D. サダヴァ 他 講談社			
成績評価方法・基準			
確認テストおよび授業中に課すレポート課題の合計得点が60点以上で合格とする			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については評価後、よくある誤りや寄せられた見解についてコメントする。Webclassにチャット欄を設け適宜質問を受け付ける。			
備考			

48	地球環境と諸問題	FGE-GT-433	選択 2単位 2年後期
Global Environmental Issues			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・地球システム (担当: 佐野)	LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第2回	生物圏を取り巻く環境: 大気循環・水循環 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第3回	熱帯バイオームをめぐる諸問題: 熱帯雨林の破壊 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第4回	湿潤バイオームをめぐる諸問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第5回	乾燥バイオームと砂漠化の問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第6回	雨季と乾季のあるバイオームと諸問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第7回	生物多様性をめぐる諸問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第8回	農林水産業をめぐる諸問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第9回	気候変動をめぐる問題 (担当: 佐野)	資料等を活用して各授業内容を復習し、LMS の確認テストを受ける。 LMS に掲載される資料を事前に閲覧して予習する。	2
第10回	大気環境をめぐる諸問題 (担当: 山田)	大気環境をめぐる諸問題についての予習 大気環境をめぐる諸問題についての復習	2
第11回	水環境 (水資源) をめぐる諸問題 (担当: 山田)	水環境 (水資源) をめぐる諸問題についての予習 水環境 (水資源) をめぐる諸問題についての復習	2
第12回	海洋をめぐる諸問題 (担当: 山田)	海洋をめぐる諸問題 (担当: 山田) 海洋をめぐる諸問題についての復習	2
第13回	水圏生態系をめぐる諸問題とまとめ (担当: 山田)	水圏生態系をめぐる諸問題についての予習 水圏生態系をめぐる諸問題についての復習	2
第14回	まとめ (担当: 佐野)	これまでの講義後に行ったLMSの課題を復習しておく。 LMS の確認テストを受ける。	2

49	職業指導（工業）	FGE-Z-531	選択 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Vocational Guidance			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
	○	アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科(MC学科を除く) 3年全組 小川 和久 中島 夏子			
授業の達成目標			
工業社会で働くことになる生徒の指導にあたり、教師はまず適正な職業観をもつことが求められる。また教師は、生徒がモノ作りなどの生産の仕事に個人の成長と幸福感を得ることができるように、自己発見や自己理解が重要なことも指導する必要がある。その上で、現代の工業社会で課題となる職業選択、職業適性、能力開発等について基礎を学習し、生徒の主体的な問題発見と問題解決能力を育成するための教育の方法を習得するものとする。			
ミニマムリクワイアメント			
生徒の主体的な問題発見と問題解決能力を育成するための授業計画を立案することができる。			
授業の概要			
現代社会の工業技術の変化は日進月歩で著しいものがあり、創造的な能力と適性が以前よりも増して強く求められている。一方で、旧き技術を大切にしながら、新たな工業技術の創造に努める工業社会の歴史と適性の概念の変遷を学ぶことも重要であり、職業観の形成、職業技能の習得過程、職業適性の諸理論の理解を通して、モノ作りを支える人たちのキャリア形成の問題に触れる。さらに、工業高校でのキャリア教育の授業計画作成をグループワークで行うことを通して、教育実践の具体例を学んでいく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作資料を使用する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループ協議とその発表内容（20%）、複数回提出を求めるレポートの内容（80%）にもとづき総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
発表内容およびレポート内容については、授業中にフィードバックする。			
備考			

49	職業指導（工業）	FGE-Z-531	選択 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Vocational Guidance			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	工業科における職業指導とは何か（中島）	シラバスを読んで授業概要を理解してくる。	2
第2回	なぜ人は働くのか（小川）	「勤労観・職業観」について調べる。	2
第3回	キャリア教育実践① 自己分析と適性（中島）	「キャリアプランと自己分析」について調べる。	2
第4回	キャリア教育実践② キャリアプラン（中島）	「キャリアプランと自己分析」について調べる。	2
第5回	キャリア教育実践③ 工業科における実践例（中島）	「キャリア教育実践」について調べる。	2
第6回	職業選択と適性① 職業興味検査（小川）	「職業興味」について調べる。	2
第7回	職業選択と適性② 適性の概念（小川）	「職業適性」について調べる。	2
第8回	キャリア発達 の諸理論（小川）	「キャリア発達」について調べる。	2
第9回	職業技能① 職業技能の習得過程（小川）	「職業技能」について調べる。	2
第10回	職業技能② 技能学習の訓練方法とその理論（小川）	「職業技能」について調べる。	2
第11回	キャリア教育の授業設計① 目的・目標（中島）	「キャリア教育の授業設計」について調べる。	2
第12回	キャリア教育の授業設計② 方法（中島）	「キャリア教育の授業設計」について調べる。	2
第13回	工業科におけるキャリア教育の指導案作成① グループ協議と作成（小川）	「キャリア教育の指導案」について調べる。	2
第14回	工業科におけるキャリア教育の指導案作成② 報告会（小川）	「キャリア教育の指導案」について調べる。	2

50	工業概論	FGE-Z-533	選択 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Introduction to Industry			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)	○教職科目(工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
全学科3年全組 萩野 元彦			
授業の達成目標			
現代社会における工業の意義や役割を理解し、「どのようなものを、いかに作るか」を問い直す意識をもって、工業の各分野に関する基礎的な知識と技術・技能を修得し、工業高校の生徒に対して指導者として教育を行うため、「(1)工業の各学科の基本的な教科目を確認と内容を理解する。(2)各学科の基本的・基礎的な問題を理解し解くことができる。」ことに真剣に取り組む。			
ミナムリクワイアメント			
達成目標の(1)～(2)とする。			
授業の概要			
本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。高等学校において生徒に工業系科目の授業を提供するために必要となる、工業教育全体にかかわる機械、電気、情報、建築、化学、土木、電子機械、インテリアの各分野のエッセンスを、演習や実習の要素を交えながら、問題演習に重点を置きつつ、幅広く講ずる。技術者としての倫理観や実践的な技術を修得させ、環境およびエネルギーに配慮しつつ、工業技術に関する諸諸問題を主体的・合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、工業高校教員としての経験と実績を生かし、工業教育の現場で使われている生きた知識や指導法を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教材プリント 工業技術基礎 山下省蔵、内藤善文、扇柳政則 実教出版 2022			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポートおよび試験により総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
LMS 上でフィードバックする。			
備考			

50	工業概論	FGE-Z-533	選択 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Introduction to Industry			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション、復習問題	(予習)工業科の学科について予習する。	2
第2回	機械科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(復習)配付した資料を復習する。	2
第3回	電気科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(予習)配付資料及び教科書の該当箇所を予習する。	2
第4回	電子機械科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(復習)配付資料等を参考に電気科で使用する主な機器・工具について復習する。	2
第5回	建築科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(予習)配付資料及び教科書の該当箇所を予習する。	2
第6回	土木科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(復習)配付資料等を参考に建築科で使用する主な機器・工具について復習する。	2
第7回	化学工業科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(予習)配付資料及び教科書の該当箇所を予習する。	2
第8回	情報技術科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(復習)配付資料等を参考に化学工業科で使用する主な機器・工具について復習する。	2
第9回	インテリア科で学ぶ教科と教科目標等の概要	(予習)配付資料及び教科書の該当箇所を予習する。	2
第10回	製図法の基礎	(復習)配付資料等を参考にインテリア科で使用する主な機器・工具について復習する。	2
第11回	基礎力学の内容と演習	(予習)配付資料及び教科書の該当箇所を予習する。	2
第12回	各学科共通の資格取得の種類	(復習)配付資料等を参考に基礎力学の復習する。	2
第13回	各学科で取り組む基礎演習問題	(予習)配付資料及び資格について予習する。	2
第14回	全学科のまとめ	(復習)配付資料等を参考に資格の内容を復習する。	2
		(予習)配付資料で各学科の再確認の予習する。	2
		(復習)配付資料等の結果等を参考に内容を復習する。	2
		(予習)配付資料を参考に基礎問題を予習する。	2
		(復習)配付資料等の結果等を参考に内容を復習する。	2

51	情報社会とモラル	FGE-Z-534	選択 ※「情報」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Ethical Issues of Information Society			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
全学科3年全組 片山 文雄			
授業の達成目標			
(1) プライヴァシー権の概要を理解する。 (2) 知的財産権、とくに著作権の概要を理解する。 (3) プライヴァシー権と著作権のあり方から、日本社会の特徴について一定の意見をもつ。			
ミナムリクワイアメント			
達成目標の(1)(2)とする。			
授業の概要			
本講義は高校教員免許状の取得をめざし、教職課程を履修している学生を主な対象とする講義である。情報社会において深刻化している法的でないし道徳的問題をどう解決すべきかについては、なお模索が続いている。本講義では、情報社会についての社会科学的概観を踏まえて、主にプライバシーと知的財産権(とくに著作権)という二つの重要トピックを、倫理的・法学的見地から講義する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作プリントによる。			
参考書等			
教室で紹介する。			
成績評価方法・基準			
LMS上で行う毎回の小テストの累計(40点)と、期末試験(60点)による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義開始時の質問などへの応答と、LMS上でフィードバックする。			
備考			

51	情報社会とモラル	FGE-Z-534	選択 ※「情報」の免許状取得希望者のみ必修 2単位 3年前期
Ethical Issues of Information Society			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	情報	(予習) シラバスを読んで授業概要を理解してくる。	2
第2回	情報社会(1) 経済の観点から	(復習) 情報の定義について、配付資料などを確認する。	2
第3回	情報社会(2) 政治の観点から	(予習) 経済と情報について調べる。	2
第4回	プライバシー権	(復習) 経済と情報について、配付資料などを確認する。	2
第5回	プライバシー権(平穏生活権)の判例	(予習) 政治と情報について調べる。	2
第6回	プライバシー権(自己情報コントロール権)の判例	(復習) 政治と情報について、配付資料などを確認する。	2
第7回	個人情報保護法制(1) アメリカ、EU	(予習) プライヴァシー権について調べる。	2
第8回	個人情報保護法制(2) 日本	(復習) プライヴァシー権について、配付資料などを確認する。	2
第9回	知的財産権	(予習) アメリカ、EU の個人情報保護法制について調べる。	2
第10回	著作権	(復習) 日本の個人情報保護法制について調べる。	2
第11回	著作権の主体	(予習) 知的財産権について調べる。	2
第12回	著作権の保護	(復習) 知的財産権について、配付資料などを確認する。	2
第13回	著作権をめぐる諸問題	(予習) 著作権の保護の仕方、内容について調べる。	2
第14回	まとめと試験	(復習) 著作権の保護の仕方、内容について、配付資料などを確認する。	2
		(予習) 近年の著作権をめぐる問題について調べる。	2
		(復習) 近年の著作権をめぐる問題について、配付資料などを確認する。	2
		(予習) 内容を復習し試験に備える。	2
		(復習) これまでの配付資料などを確認する。	2

52	情報と職業	FGE-Z-634	選択 ※「情報」の免許取得希望者のみ必修 2単位 3年後期
Information Technology and Occupations			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	1 持続可能な開発目標
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○教職科目(情報)		2 気候変動
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		3 健康とウェルビーイング
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		4 質の高い教育をみんなに
	○実務経験のある教員担当		5 ジェンダー平等を実現しよう
	アクティブラーニング		6 安全な水とトイレを世界中に
	メディア授業		7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
クラス・担当教員			
全学科3年全組 長谷川 律男			
授業の達成目標			
1. 情報社会における企業環境の変遷及び変化について理解する。 2. 企業のIT(Information Technology)化における現状と課題について理解する。 3. 「職業人としての在り方・生き方」を考察し、職業について理解を深める。			
ミニマムリクワイアメント			
本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1. から3. について、おおむね理解しているものとする。具体には、情報化社会の現状の認識、企業のIT化の課題の認識、職業人としての在り方について、自らその見解をグループワーク等で主張することから判断するものとする。			
授業の概要			
情報社会における産業・就業構造、さらにビジネス・労働環境等の変遷及び変化について学習し、倫理観、職業観、就労観について考察する。そして、「職業人としての生き方・在り方」を考えることができる講義内容とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、高等学校教員としての経験と実績を生かし、学校教育の現場で教えられている内容を踏まえて、社会の変化に対応した生きた知識を教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作教材			
参考書等			
情報と職業 近藤勲 丸書出版 2002 情報と職業(改訂2版)(IT Text) 駒谷昇一、辰己丈夫、情報処理学会(編集) オーム社 2015 情報産業と社会 伏見正則 実教出版 2022			
成績評価方法・基準			
レポート提出、課題等によるグループワーク及び発表等により評価する。 レポート2回(60%)、グループワーク及び発表(40%)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

52	情報と職業	FGE-Z-634	選択 ※「情報」の免許取得希望者のみ必修 2単位 3年後期
Information Technology and Occupations			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	学習内容についてのガイダンス	(予習) シラバスで学習内容を確認する。	2
第2回	情報社会と職業	(復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第3回	社会基盤としての情報化 ① 情報化と高度情報通信社会	(予習) 情報社会における職業について調べる。 (復習) 情報社会における職業について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第4回	社会基盤としての情報化 ② 家庭・学校・公共施設等の情報化	(予習) 社会基盤としての情報化における高度情報通信社会について調べる。 (復習) 社会基盤としての情報化における高度情報通信社会について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第5回	情報社会と企業・産業構造の変化 ① 産業構造の転換と就業構造の推移	(予習) 社会基盤としての情報化における家庭・学校・公共施設等について調べる。 (復習) 社会基盤としての情報化における家庭・学校・公共施設等について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第6回	情報社会と企業・産業構造の変化 ② 流通情報及び金融ネットワークシステム	(予習) 産業構造の転換と就業構造の推移について調べる。 (復習) 産業構造の転換と就業構造の推移について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第7回	情報社会とビジネス	(予習) 流通情報及び金融ネットワークシステムについて調べる。 (復習) 流通情報及び金融ネットワークシステムについて、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第8回	情報化におけるビジネス環境の変化 ① 販売(小売業)における情報活用	(予習) 情報社会におけるビジネスについて調べる。 (復習) 情報社会におけるビジネスについて、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第9回	情報化におけるビジネス環境の変化 ② 戦略的な情報活用	(予習) 販売(小売業)における情報活用について調べる。 (復習) 販売(小売業)における情報活用について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第10回	企業における情報活用 ① 製造業における情報システム	(予習) 戦略的な情報活用について調べる。 (復習) 戦略的な情報活用について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第11回	企業における情報活用 ② 経営情報を管理するためのコンピュータの活用	(予習) 製造業における情報システムについて調べる。 (復習) 製造業における情報システムについて、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第12回	働く環境の変化	(予習) 経営情報を管理するためのコンピュータの活用について調べる。 (復習) 経営情報を管理するためのコンピュータの活用について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第13回	労働観の変化	(予習) 働く環境の変化について調べる。 (復習) 働く環境の変化について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2
第14回	情報社会における犯罪と法制度	(予習) 労働観の変化について調べる。 (復習) 労働観の変化について、配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	2